保育所の今後の方向に関する研究

——幼稚園との関連において——

研究第8部　牛　島　義　友
研究第8部　星　　美智子

近年，幼児教育の強化充実が提唱され，それに対応して，就学年齢のひきさげや幼稚園義務教育が云々されるようになった。このようなことは，基礎的研究なしにすすめられることではない。われわれは，ここで保育所側からの問題にしぼり，もし仮に幼稚園が義務制になれば保育所のあり方はどうなるか，保育所に預けている母と子が当面する問題は何かを追究することとした。

本研究は，つぎのつの4部門からなる。

Ⅰ　香川県の各地幼稚園を訪問して実態を聴取するとともに，保育所関係者からの実状報告をうけて考察する。

Ⅱ　香川県の実態をもとに，東京都の保育関係者から東京都の場合について推測的意見をもとに考察する。

Ⅲ　東京都で働く母親が幼稚園に通わせるときにおこる問題を事例研究によって検討する。

Ⅳ　香川県各地幼稚園の働く母親を対象に質問紙法によって実態調査をおこなう。

Ⅰ　香川県での実態調査

香川県は公立幼稚園がひろく普及し，有職の母親も子どもを幼稚園に通わせている。その実態を知るために香川県におもむき，調査（Ⅳ幼稚園の午後の生活調査）を依頼した各地幼稚園の園長から直接実状をきくとともに，保育所関係者の集りをもち保育所側からみた問題点を話しあってもらった。

1.　幼稚園訪問聴取

《高松市高松幼稚園》

高松市は香川県の県庁所在地で地方の中心都市である。香川県は公立幼稚園が各市，各町に設置されているのに，高松市だけは旧市内に公立幼稚園はひとつもない。私立幼稚園だけが31園あり，市町村合併で新市内になったところに公立幼稚園だけ13園ある。保育所は公立27カ所，私立12カ所である。父兄の職業は会社員，公務員，商店が主であり，母親は働いていることを幼稚園にかくしたりする。[保育料は月額4,000円～5,000円である。保育所では「知的におくれる」と思いこみ，職業をもつ母親も子どもを就園させている。

《観音寺市観音寺幼稚園》（明治35年創立）

商店，漁師村があり，内職をしている母親が多い。4歳から幼稚園へという考えが強い。大部分の母親は仕事をもち，午後は子どもを母の実家や親戚に預けたり，家で祖母にみてもらっている。そして母親は幼稚園に長時間保育の要求をだしている。市には公立幼稚園9園，私立2園あり，公立幼稚園は地区ごとに1園づつある。それに比べて保育所は公立保育所が4園だけで，入所希望しても入れない現状であり，4km 遠くから通う子もある。保育所がないために幼稚園へ通う子も多い。幼稚園の保育料は月額500円，所得により全額，2/3，1/2免除と全額負担の4段階に分かれる。減免制度は，他の市町の公立幼稚園共通である。

《多度津町四箇幼稚園》

農村に誘置工場のある町で，母親は何らかの職業についている。内職は工場の下受け作業（縫製，部品組立）が多い。公共幼稚園4園と私立保育所4園があり，公立保育所のない町である。私立幼稚園もない。祖父母と同居者が多く，同居していないものは本家や実家に子どもを預けている。いわゆる「カギっ子」はいない。保育料は700円。

《丸亀市丸亀西幼稚園》

市内の幼稚園は全部3年保育からである。3歳児で入園させるものが殆んどである。送迎が大変だからと2年保育希望者が少しいる程度。1年保育は転居者の他にはいない。市には，県立幼稚園1，市立幼稚園8，私立幼稚園3園があり，保育所は公立保育所11，私立保育所1

である。親の職業は会社員が多い。母親の約半数は有職婦人である。保育料800円。

《善通寺市善通寺幼稚園》

保育所から2年保育に就園するものが，例年半数以上を占める。大部分の母親が仕事をもっている。園の送迎は祖父母が多い。親の職業は会社員，公務員，自衛隊員商店に大体4分される。市内の幼稚園は，公立8，私立1で，保育所は公立4個所だけである。幼稚園の保育料は800円。

《大内町三本松幼稚園》

90年前から全国の大部分の手袋がこの辺一帯でつくられている。家内中，町中が手袋中心とした仕事に従事している。（内職または一家の会社組織で手袋の染色，縫製の仕事）。1～3歳までは保育所に預け，4～5歳は幼稚園へと横割になっている。母親は幼稚園は義務制だと思っている。午後は近所の人や親戚に預けている。幼稚園は公立が3，私立が1で，保育所は公立5，私立1である。幼稚園の保育料1,200円。

以上でみるように，高松市以外は公立幼稚園の普及率高く，幼稚園の2年保育を義務制と思っているものも多い。保育料も安く，そのうえ，就園奨励制度として減免の処置がなされている。このため園長はひどく繁雑な事務処理を要求されている。幼稚園に通わせている母親の大部分は職業をもっている。その割に子どもの午後の生活に困っておらず。皆，祖母や実家，近所の人などにみてもらっている。観音寺市では保育所の不足が問題にされ，時間延長の要求が出されている園もある。これは，近年保育所が近くに出来た地域の幼稚園である。つまり保育所の設置によって，保育所を意識しはじめたといえよう。それまでは小学校と同じように幼稚園を義務制と思い，時間延長の要求など出していなかったという。また，母親たちは幼稚園と保育所をあまり区別していないともいえる。

2.　保育所側からみた実態と問題点

香川県で長年保育所保育にたずさわっている現場の人9名と現在保育行政に関係している人4名に実態をきいた。出席者は川西美代（保母の会会長）山条祐教（愛集苑保育園長）宮本藤枝（直島第二保育所）葛西アサ子（香南保育所）赤松章野（三本松保育所）草薙達子（高瀬南部保育所）和気妙心（白方保育所）岡朝子（愛光保育園）吉岡博子（丸亀土居保育所）大西弘（県婦人青少年課課長）島田正之（婦人青少年課）岩根昭子（〃）伊藤文子（〃）の諸氏である。

(1)　行政的実態

香川県の就学時の就園率は85.97％で全国一である。これを保育所との割合でみると，3歳児は，保育所41％：幼稚園16％であるが，4歳児になると保育所26％：幼稚園72％と急に幼稚園児の割合がふえ，さらに5歳児では保育所児13％：幼稚園児86％になっている。保育施設は，現在保育所が187カ所，幼稚園が214カ所である。しかし，保育施設は毎年10カ所づつ設置され，300カ所になるのも間近い。幼稚園はつくりすぎており，統合したりして減ることはあっても増設はできない。保育所の数の方が多くなるであろう。なぜなら，措置児数は年々増加しており，保育所の要望は高まってきている。行政的に母親の要望にこたえるため，保育所設置に力をいれている。

香川県の保育専門学校では幼稚園と保育所の両方の資格がとれる。将来幼稚園と保育所の人事交流を可能にすることを考えている。待遇面の均衡を考慮し，こうした交流のなかで互いに内容を知り，保育内容面の一元化を考えていきたい。このことで親や地域の人の意識も変えていくことができると思う。数年前までは無資格の保母が多かったが，現在は92％が有資格者であり，そのうち60％が学卒になっている。現在香川県の保育所保母の数は1,300人，幼稚園教諭800人である。

(2)　保育所での実態

丸亀市では，10年前は5歳児まで保育所にいる子が85％であったが，現在は2年保育から幼稚園に移行する子が95％になっている。市の指示と親が幼稚園教育をのぞむからである。直島は町役場が4歳から幼稚園ときめており，5歳で保育所にいっているのは，幼稚園が遠すぎる。保育所一カ所である。三本松では大部分の4歳児が幼稚園にいく。ひとりふたり4～5歳児が残っても指導しにくいので保育所も僅少の子なら年長児を預るのは遠慮したい。大川町全体でみても保育所児は，0歳児1名，1～2歳児945名，3歳児444名で4歳児は186名である。この4歳児186名は，幼稚園が保育所の近くにない一箇所の保育所児である。高瀬の保育所では，小学校校舎と幼稚園が一緒なので，児童数の増減により，役所から今年は保育料を安くするから4歳児も保育所におくようにといってきたり，大変不都合が多いといっている。香南地区は町役場のとりきめで，4歳以上幼稚園となっている。一昨年保育所ができてから，母親が長時間保育をのぞんで保育所におきたいと要望をだしている。それができないなら幼稚園の保育時間の延長をと要求している。香川県の各地で母の要望から1時間100～200円と保育料をとって時間延長している幼稚園もできている。小学校

のサロン学級（学童保育）に一緒に幼児をいれている所もあるが，子どもがいやがり行かない。直島では新しく幼稚園設置の計画があったが，母親たちの強い保育所要望の声が通り，幼稚園と保育所を一緒にした幼児学校の設置に変更された。しかし，一般の母親は，幼稚園は義務制と思い当然のように幼稚園に通わせ，時間延長の要求をせず何とか解決している。職業をもつ母親が圧倒的に多く，子どもは祖母や親戚，近所の人がみたり，家の周辺で遊んでいる。近隣の結びつきが強いことと遊ぶ空地などがあるので救われている。

(3) 幼稚園へ移行する理由

a. 行政機関の指導がつよい。市・町が勧誘する。48市町のうち，就学まで保育所でというのは6市・町のみである。他は3歳から1町，4歳から7市・町，5歳から15市・町が幼稚園移行への運営方針をとっており，部分移行は4歳児17市・町，5歳児2市・町の方針になっている。香川県では市・町そして学校・幼稚園の業績の向上，職員の獲保のためにも幼児を幼稚園へ勧誘する。

b. 幼稚園が普及しすぎてデメリットがでてきている。「親の幼稚園教育への期待」「幼稚園へいかなければ学校へいっても遅れる」「保育所では教育して貰えない」という意識が強い。「皆幼稚園にいくのに保育所ではかわいそうだ」という気持もある。これらは教育偏重の考えと保育所の認識が足りないことのあらわれである。

c. 保育料の問題。保育所は保育料が高いので4歳から幼稚園へ移るものが多い。教育が云々という以上に経済的なことが土台にあるのではないか。

d. 保育所の不足。保育所が年々増設されるにつれ，保育所を希望するものもふえてきたが，まだまだ入所希望者を全員うけいれるところまでいっていない。近くに保育所がないため幼稚園にいっている子も多くなってきている。

(4) 問題解決のために

香川県の保育行政が意欲的に実践的に発展しているので年ごとによくなっていくのは期待できる 100年の歴史をもつ幼稚園と25年の歴史の保育所であるが，今後保育施設の増設，幼稚園と保育所の人事交流などで徐々に認められるようになると思う。一方，保育者自身が父兄や地域の人たちと連帯感をつよめるなかで地道に周囲の人たちの保育所への認識を変えていく必要がある。

なお，各地幼稚園訪問の報告の詳細，保育所関係者の座談会記録，香川県の実態（保育所幼稚園児の年齢構成保育所の現況，措置児の推移）は，印刷の都合上省略する。

II 保育所における今後の方向に関する推測的意見——東京都のばあい——

幼稚園，とくに公立幼稚園が普及して義務制のようになれば，保育所はどのような形になるか。香川県は高松市を除き他の地域は公立幼稚園が殆んどである。母親たちは義務制のように思って就園させていることも今回の実態調査で明らかにされた。香川県だけでなく京都を中心とした地方でもこの傾向がみられる。もしかりに将来幼稚園が義務制になれば，東京ではどのような問題がおこるだろうか。香川県での実地調査を土台として，東京都で長年保育現場にあった人たちに，東京都周辺での将来の保育所のあり方を中心に意見を出してもらった。

出席者は，鈴木とく（都立練馬保育専門学校講師），加藤照子（世田谷区立大蔵保育園園長），山崎多鶴子(相模原市みどり保育園園長)，打矢千鶴子(港区志田町保育園園長)，鈴木政次郎(厚生省児童家庭局母子福祉課）と本研究担当の牛島，星である。

その要約はつぎのようになる。

1. 親の問題——幼稚園が義務制になれば，東京の親たちはどのような反応をするだろうか，どのような問題に直面するだろうか——これについて，東京都は地域によってさまざまであろうという意見が出された。(1)ある地域は幼稚園がどんなに普及しても保育所をえらぶだろう，現在の母親たちの生活と保育所への期待からみて幼稚園の半日保育をえらぶことは考えられない。(2)最近とみに保育所でも幼稚園と同じように教育もしているという認識が高まってきており，進歩的な母親たちは保育所を選ぶであろう。(3)一般の母親たちは，日本全体が学校中心，教育中心の風潮がつよいので幼稚園を選ぶことになるだろうが，香川県のように午後放っておくことにならないだろう。何らかの形で午後の保育が考えられなければならない。親としては小学校低学年で直面する問題をそのまま幼児期にぶつけられることになるだろう。いま，学童期に入って困ることは，生活上勤めはやめられない，それでも小学校の先生から「働いている母の子は」「学童保育に通う子は」と問題にされる悩みである。また学童保育や児童館は保育所と違って二重保育の形式であり，一日一貫した形でないので連絡がとりにく

く心配である。

そうかといって，香川県のように祖母にみてもらったりするわけにはいかない。港区などでは，自宅での内職や祖母が同居していれば保育所入所資格に欠けるほどで園児145人の殆んどが外勤の母親であり，子どもが幼稚園から帰ってもみてやれるものはいない。母親としての問題は東京都では深刻なものになろう。

2. **子どもの問題**——保育所を必要としている子が幼稚園にいったばあい，東京ではどのような混乱や問題がおこるだろうか——

(1) 東京は，子どもが幼稚園から帰って，ひとりで遊んでいるような環境にはない。遊び場はなく交通ははげしく危険である。都市は地方出身者の集まりでもあり，近所に母の実家がある，親戚があるといった香川県の状況とはまるで違っている。狭少な家屋に住んでいるので祖母と同居している家族も少ない。都市の特徴として近隣との地域的結びつきもない。地域的結びつきは東京の下町にはわずかに残っているだろうが，近所の子どもの名前も知らない生活をしている人が圧倒的に多い。この都市的傾向は，神奈川県，埼玉県，千葉県にベッドタウンとして居住を持つ団地などを中心として東京周辺に拡大しつつあるといえよう。

(2) 保育所の子どもたちが幼稚園にいけば，午後「カギっ子」になってしまう。児童館や学童保育は現在の学童たちにも魅力ない存在となっているが，幼児の場合なお問題は大きい。午後保育所へ帰ってくる形も考えられよう。子どもは，一日に何段階にも保育者が変わることになり，幼児だけに一層混乱が大きいと思われる。

(3) 保育所は，少ない人数を複数担任で受けもち，一日の流れのなかで子どもを保育している。その生活を身につけた子どもたちが，幼稚園に移れば，保育所から幼稚園と場所が変るだけでない問題が残る。4歳で新しい集団に入るのは，家庭から直接幼稚園へいく子より，戸惑いも多いと思われる。幼稚園側で保育所からきた子を理解して，受けとめ方を考えないと不適応をおこすことになるだろう。

3. **保育所運営上の問題**——東京のばあい，どのような影響をうけるか，行政的制度ではなく，保育現場の観点から考察する——

(1) 保育所では0歳から6歳まで一貫した保育をしているが途中で中断されてしまうことになれば問題ではないか。子どもたちは，小さい子は年長児の影響をうけ，年長児は乳児や1～2歳の幼児と接することで得るものが多い。また，保育者も乳児を保育した経験があって年長児を保育することで，幼稚園のように年長児だけ扱うより，子どもをみる目は確かになっているのではないか。

(2) 圧倒的に幼稚園が増えなければ不可能だか，もし幼稚園が普及して，香川県のように保育所は3歳以下ということになれば，それはそれなりに考えなければならないだろう。幼稚園から保育所に帰ってくる形をとってもよい。一日のうち2～3時間何か教えることより，保育所で子どもの生活全体の養護や指導をする方がより有意義であり大切なことなのだから。ただ子どもの生活を一日の流れとしてみられないのが問題である。今後，保育所でも幼稚園と同じく義務教育をうけたということになればよいのではないか。母親たちは，保育所が厚生省の管轄で幼稚園が文部省であると区別していない。それだからこそ香川県では幼稚園に時間延長を要求したりしている。現在，保育所保母も二年制教育をうけ，幼稚園教師の資格をもっているものが多いので，保育所でも義務教育ができるのではないか。

(3) 東京では保育所に対する社会的ニードと認識が高まってきている。この傾向は現在すでに地方都市にもみられるところである。しかし，全国的にみれば香川県の方式，つまり幼稚園志向型に流れることは否定できないであろう。保育所を託児所のイメージに重ね会わせてうけとる認識が一般的だからである。ここで必要なのは保育所自身がその活動や内容について広く社会一般の認識を求めて努力することである。

（座談会の記録は紙面の都合上省略する）

Ⅲ　働く母親と子どもの幼稚園生活——東京都——

当研究所附属のナースリー・ルームは，朝9時から午後5時まで預かる施設である。年齢は0歳から3歳までが対象である。したがって，ナースリー・ルーム修了後は，幼稚園あるいは保育所にいく。この就学前の2年間母親が幼稚園に預けたばあい，保育時間が短かくなり，幼児の午後の生活に対して何らかの解決法をみいださなければならない。これをさぐることによって，幼稚園の義務制が制度化したばあい，都市の働く母親とその子ど

もたちにもたらされる問題がどのようなものであるかを知ることができよう。

以上の目的から，ナースリー・ルーム修了者の母親に面接あるいは電話によって事情聴取をおこなった。質問項目は，1)子どもの氏名，生年月日，修了年度。2)両親の生年月日，勤務先。3)当時（ナースリー・ルーム修了時）の家族構成。4)修了後通った保育施設あるいは幼稚園。5)ナースリー・ルーム修了のための母親の仕事の変化。6)幼稚園のばあいの子どもの生活（幼稚園への送迎帰宅後世話をする人。おやつ，昼食の与え方など)。7)保育に要した費用。8)当時，養育にあたって困ったこと 9)しつけ・教育に関して困ったこと。10)母親の勤務への支障，身心の負担について。11)子どもへの影響。12)その他感じたこと。以上の12項である。

対象は，昭和34年3月から昭和44年3月にわたる11年間の修了者である。最近数年間の修了者を除いたのは，保育所の普及により，修了後保育所へ入所するものが多くなったことと，またナースリー・ルームでも，隣接する幼稚園と連絡を密にして，午後ナースリー・ルームに受け入れる体制をとり問題を解消しているからである。延人員30名の資料をえたが，このうち11組は兄弟姉妹である。同じ家庭でも，兄の時と弟の時とでは環境条件がことなり，かかえている問題も解決方法も当然違ってくるので，子どもひとりひとりのケースとして分析することとする。

《父母の職業》

（父親）		（母親）	
会社員	5	研究所員	5
大学（教授・助教授）	3	看護婦・薬剤師	4
研究所員	3	出版・放送会社	3
公務員	2	公務員	2
小学校教師	2	小学校教師	1
自由業	2	大学講師	1
開業歯科医	1	自宅（歯科医・美容院・写真材料店）	3
写真材料店	1		

両親の職業は殆んどが専門職であり，さらに資料をみれば，責任ある地位にあることが明らかである。

《家族構成》

（子ども数）

1人	2人	3人	計
10	16	4	30

（家族数）

3人	4人	5人	6人	7人	計
9	13	4	3	1	30

（同居人）

	祖父	祖母	その他の身内	手伝い
	1 通い 1	4 別棟(4) 通い 2	4 別棟(3) 通い 1	5 通い 5
計	2	10	8	10

同居人と別棟に住むもの，通いで手伝いにくるものを表にしてみた。祖母，祖母以外の身内，手伝いの人がそれぞれ1/3づつになっている。

《修了後の入園先きと母の仕事の変化》

入園先き	人数	変えない	時間短縮	退職
私立幼稚園	23	18	2	3
保育所	6	6	0	0
自宅	1	1	0	0
計	30	25	2	3

幼稚園では3名のものが退職，そのうち No.5（資料No.）は3カ月勤めを続けたがうまくいかずに退職している。勤務を時間短縮したもの2名である。子どもを幼稚園にいれても仕事を変えなかったもの18名であるが，6名（No. 2, 10, 12, 14, 16, 26）は，欠席・早退・遅刻が多くなり仕事の能率が下ったことを報告している。

《幼稚園の送迎，帰宅後の世話》

保育所に通ったものは父または母が保育所への送迎をしている。幼稚園のばあいは，祖母や叔母などの身内のもの，手伝いの人が迎えにでている。No. 15, 17, 29は子どもを迎えにいくためのアルバイトを時間給で依頼している。幼稚園から帰ってからの子どもの世話をする人をみるとつぎのようになる。

自宅	祖母 6 (30)%	その他身内 2 (10)	手伝いの人 6 (30)
他の家	母の勤務先 2 (10)	祖母の家 1 (5)	共同保育・保育ママ 6 (15)

幼稚園にいった子のうち，母が退職したケースを除いた20名についてみた。共同保育，保育ママのばあいは二重保育になり，幼稚園から午後預ける所へ子どもを移動させるのに，母が昼休みを利用したり，手伝いを頼んだりしている。母の勤務先きですごす子は2名で，ひとりは美容院，ひとりは大学の研究室である。祖母が自宅で子どもをみるのは6名であるが，3名はナースリー・ルーム修了後同居に変えている。また，No.12は，毎日祖父が鎌倉から幼稚園の迎えにでるため上京，夕方母が帰宅するまで子どもをみていて帰るという生活をしている。

《保育に要した費用》

ナースリー・ルーム修了後退職した母を除いた27名の報告のうち，家族に子どもをみてもらい，保育費を要しなかったもの７名，保育のため経費かけたが額を忘れたもの８名であった。つぎに記憶しているものの保育に関した費用をとりだしてみる。

No. 1 祖母に子どものおやつ代として月 5,000円（昭37)。No. 8 保育ママの費用，月額 4,000 円（昭36)。No. 11 手伝いの人に１日 500 円，１食つき，ボーナス1.5カ月分（昭41)。No. 12 手伝いの人，月 20,000～30,000円，ボーナス年２回（昭40～42)。No. 15 幼稚園への出迎え依頼，時間給１時間100円(昭41)。No. 17 幼稚園への出迎え，同敷地内の母の勤務先きまで連れてきてもらう。月1,500円（昭41)。No. 26 手伝いの人に１日800円（昭42)。No. 29 保育園保育料2,300円。出迎えと夕方みてもらう学生アルバイトに月10,000円，夜間は１回1,000円で月額18,000円～20,000円（当時母親の給料24,000円）

《当時かかえていた問題》

（幼稚園に関すること）

「父兄会，遠足などに出られない」「母が送迎できない」「他の父兄との交流に欠ける」などが多くあげられ勤めの関係で子どもを朝早く連れていきたいが幼稚園の開園時間がおそくて困ったという声もあった。

（養育・しつけに関すること）

「世話を頼む人と母とのしつけの統一がとれない」「世話を頼む人が病気のとき困る」がもっとも多い。日常生活では，母が帰宅してから夕食準備にかかり，そのあと夕食になるので，子どもがお腹がすいてしまう，それまでに何か食べさせると夕食を食べなくなるという問題も出ていた。夕食がおそいので子どもが睡くなってしまうまた逆に子どもが昼寝をするので夜いつまでも寝ないという問題もでていた。

（母の勤務への支障，心身の負担について）

幼稚園の父兄会，当番，行事のとき，欠席しなければならず勤務上の支障になったというもの５名，「通いの手伝いが当日の朝連絡して休むので勤務の予定が変更になり無責任な勤めになり困った」というものもいる。心身の負担については，「忙しく心のゆとりがなかった」というものが一番多く８名，睡眠時間少なく疲労がひどかったというものもあった。

（子どもへの影響）

母の生活があわただしく，子どもとの接触が少なかったと悔いている（６名)。子どもは早くかな自立し，自主性のある子に育った（５名）という一方，精神的に不安定であり（２名)，何人の手にも渡って育ったので人の顔色をみる子になった（１名）と問題も出されている。

以上，アンケートの30ケースをまとめてみたが，現在小学高学年～高校生になる子の幼児期のことで10年もさかのぼっての印象であるため，当時直面していた困難な問題の記憶も薄らいできている。それでも，アンケートをうけた母親たちは，当時は現在のように保育所が量質ともに備っておらず，ナースリー・ルームが４～６歳まで延長されれば良いと思い続けたといっている。対象とした母親のひとりは，他のナースリー・ルームの母親たちと，子どもたちの共同保育をしたり，学童保育設置のため東京都や港区へ働らきかけをしている。

何れにしても，それぞれ何らかの解決策をとっているのは事実である。退職した一割を除き，幼稚園の近くに転居，勤務先き近くに転居，祖母と同居など居住の環境や条件をかえて合理化をはかったり，祖母や手伝い，職場の人などの理解と協力をえて切抜けている。母親と子どもの心身の疲労，経費の点からいえば，自宅――保育所（幼稚園）――職場――保育所――自宅と一日に行動する距離の問題は大きい。もうひとつは，周囲の人びとの理解と協力である。この二点が問題解決のポイントとなっている。

ここで出された具体的な問題点は，東京都の働く母親の実際の問題をうきぼりにしている。「幼稚園の送迎行事に出られない」「他の父兄との交流がない」「母と子の接触がたりない」「心のゆとりがない」などは香川県の調査でも１～２位にあげられた問題である。香川県で多かった「交通事故や危険なことに対する心配」は，逆にみられない。東京都では，幼児を放っておくことはあまりにも危険で誰かが子どもをみているからであろう。それだけに，幼稚園以外の保育費をかけている。また，「子どもの夕食がおそくなる」に関した問題は香川県ではみられない。香川県では職場と自宅が15分以内というものが多いので当然ともいえる。通勤時間が１時間前後が普通の東京では，幼稚園の開園が遅いことや夕食時間が遅くなる問題が出される。子どもを頼む人の病気や都合で困るのも，近隣社会との結びつきがなく，ただひとりの人に頼っている都会的な問題であろう。

ここで対象とした事例は，東京都一般の典型とはいえない。経済的にも恵まれ，専門職であるために勤務時間はある程度融通つき，またマイカーやタクシーで子どもを送迎したりしている。祖父母と同居し，あるいは住込みの手伝いをおく（ここでは30%，香川では外勤フルタイムで0.45%）場合にも，住宅のゆとりや経済事情が左

右する。したがって，東京の平均的な条件にある一般的母親のばあいには，以上考察したような諸問題は，さらに増幅された形であらわれてくるのは当然である。

（各事例をまとめた資料は，印刷上，掲載を控える）

Ⅳ　香川県における幼稚園児の午後の生活についての調査

1．目　　的

香川県は，幼稚園とくに公立幼稚園が数多く設置されており，その就園率は85.97％と全国一である。仕事をもつ母親も幼稚園に子どもを通わせている。そのばあい幼稚園から帰ったあとの子どもたちの生活はどうなっているか，親たちの問題がどこにあるかを知ることが本調査の目的である。なお，もし仮に幼稚園が義務制になれば，全国的に香川県の実態に近づくだろうとの想定のもとに本調査をおこなった。

2．調査方法

(1)　対象および手続き

財団法人幼児研究所高松幼稚園の協力をえて，県内各地にわたる幼稚園を選択してもらい，つぎの幼稚園を対象とした。

高松市(高松・高松東・太田百華・聖母幼稚園)，観音寺市(観音寺・観音寺東幼稚園)，善通寺市（善通寺・中央幼稚園)，丸亀市(城西・城北・城東・城坤・東・群家幼稚園)，多度津町（四箇・豊原・多度津幼稚園)，庵治町庵治幼稚園，大内町三本松幼稚園，白鳥町本町幼稚園。

高松市内は私立幼稚園だけであり，他の地域は市立あるいは町立幼稚園である。以上，20園を対象に，質問紙を職業をもつ母親に渡し，封をして幼稚園へ提出する形式をとった。配布数 1,700，有効回収 1,614，回収率95.0％である。

(2)　調査項目

Ⅰ．家庭状況（家族，居住環境，家賃，周囲の環境，子どもの遊び場）Ⅱ．母親の勤務状況（仕事の内容と時間，勤務先，通勤時間，出勤時間）Ⅲ．子どもの保育状況（就園前，幼稚園生活，幼稚園から帰ってからの保育，子どもの午後の生活），Ⅳ．幼稚園から帰ってからの母の留守中のしつけ，Ⅴ．子どもを幼稚園に通わせて働いていることについて，Ⅵ．仕事に対して――以上の項目について質問した（調査用紙―p 347～352―参照)。

(3)　調査日時

1973年10月質問項目を検討し，11月質問紙を作製，12月に調査を依頼する幼稚園の選択にあたり，1974年1月に調査を実施した。

3．結　　果

(1)　高松市内は幼稚園はすべて私立であり，他の地域は殆んどが公立幼稚園である。したがって，高松市と他の地域とを対照して検討することとした。まず，母親の勤務状況（質問紙項目ⅡＡａ）から，「外勤のフルタイム」「外勤パートタイム」「自営業」「内職」「職業なし」の5群に分け，勤務状況のちがう5群のそれぞれについて，高松市とその他の地域を比較することとした。第1表は，母親の勤務状況を分類したものである。これは，得た資料の結果であり，実態がこの割合であることを意味しない。また，調査対象として仕事をもつ母親としたが，幼稚園によっては仕事のない母の回答も含まれていたので「職業なし」として対照群とした。表の合計

第1表　母親の勤務状況

	計	外勤・フル	外勤・パート	自営業	内職	無職
	人 1,492	408	205	444	243	192
		%				
高松市	512	21.7	13.5	35.3	13.1	16.4
他地域	980	30.3	13.9	26.8	17.9	11.1

第2表　家族数

	外勤フルタイム		外勤パートタイム		自営業		内職		職業なし	
	高松	他地域	高松	他地域	高松	他地域	高松	他地域	高松	他地域
N	111	295	69	136	181	263	67	176	84	108
M	4.9	4.9	4.8	4.5	5.1	5.3	4.9	4.7	4.5	4.5
SD	1.25	1.30	1.26	1.09	1.40	1.27	1.45	1.14	0.96	1.25
t	p>0.99		0.10>p>0.05		0.20>p>0.10		0.30>p>0.20		p>0.99	

第3表　父親との同居　　$x^2-*=0.05>p$

	外勤フル		外勤パート		*自営業		内職		無職	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
計	111人	292	68	131	178	256	66	167	84	103
同居	91.0%	88.7	100.0	94.6	100.0	93.7	95.5	93.4	98.8	93.2
勤務上別居	4.5	4.5	—	2.3	—	1.2	3.0	1.8	1.2	5.8
別居	—	2.0	—	8.5	—	2.3	1.5	—	—	1.0
離別	0.9	3.1	—	0.8	—	2.0	—	2.4	—	—
死別	3.6	1.7	—	0.8	—	0.8	—	2.4	—	—

第4表　母の年令

	外勤フルタイム		外勤パートタイム		自営業		内職		職業なし	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
N	109	297	69	135	180	257	66	175	82	107
M	33.3	33.0	32.9	32.7	32.6	33.4	33.7	33.0	33.0	33.6
SD	5.02	5.35	4.38	4.74	4.57	5.06	5.59	4.79	4.45	4.84
t	0.70>p>0.60		0.80>p>0.70		0.10>p>0.05		0.40>p>0.30		0.40>p>0.30	

第5表　子どもの数　　$x^2-*=0.05>p$

	外勤フル		外勤パート		自営業		内職		無職	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
N	111	296	58	134	179	263	66	175	83	108
M	1.9	1.9	2.3	1.9	2.2	2.1	2.2	2.1	2.1	1.9
SD	0.51	0.61	1.39	0.58	0.80	0.78	0.38	0.68	0.71	0.86
t	p>0.99		0.01>p		0.20>p>0.10		0.30>p>0.20		0.10>p>0.05	

第6表　同居者　　$x^2-*=0.05>p$

	外勤フル		外勤パート		*自営業		内職		無職	
	高松	他	高松	他	高松	他	高松	他	高松	他
計	148人	410	86	167	254	366	91	205	92	122
なし	41.4%	38.4	72.5	66.2	48.1	41.1	62.7	66.5	83.3	78.7
祖父	26.1	31.7	13.0	18.4	27.6	32.7	22.4	16.5	10.7	11.1
祖母	51.4	57.2	24.6	30.9	43.6	52.1	32.8	26.1	11.9	17.6
その他の身内	13.5	9.8	10.1	5.1	9.4	9.1	1.0	3.4	1.2	5.6
子どもをみる他人	0.9	1.0	2.9	2.2	5.0	3.0	1.0	2.8	—	—
子どもみない他人	—	—	1.4	—	6.6	1.1	1.0	1.1	2.4	—

数が回収資料数と一致しないのは，該当質問項目の記入者のみを対象としたからである。

1)　家族状況。

a.　家族数をみると平均4.5～5.3人であり，「自営業」の家族数が多く，「職業なし」がもっとも少ない。高松市と他の地域とには差はみられない（第2表）。つぎに父親と同居・別居別をみた(第3表)。父親が同居している，勤務上別居している，別居，離別，死別に分けて検討すると，「自営業」群のものに，高松市とその他の地区の差がみられ，高松市は父と同居しているものが100%なのに，その他の地域では93.7%である。また，母親の年齢については，平均32.6歳から33.7歳で，地域別にも職業状況別群にもとくに差はみられない。つぎに，子どもの数についてみると（第5表），1.9人から2.3人が平均であり，「外勤パートタイム」群に地域差がみられ，高松市の方が子どもの数が多く，平均からのずれも多い，同居者については，親と子どもだけで他に同居人のいない家族は，母親が「職業をもたない」群に多く，高松市

第7表a　居住環境　　$x^2-*=0.05>p$

	外勤・フル		*外勤・パート		自営業		内職		職業なし	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
計	103人	252	64	101	169	217	65	135	78	67
一戸建	79.1%	91.7	89.1	71.3	93.5	95.9	90.8	87.4	84.6	79.1
中高層	1.0	0.4	4.7	12.9	5.3	2.3	4.6	2.2	7.7	4.5
木造アパート	1.9	7.9	6.2	15.8	1.2	1.8	4.6	10.4	7.7	16.4

第7表b　居住環境　　$x^2-**=0.01>p$

	** 外勤・フル		外勤・パート		自営		内職		** 無職	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
計	109人	289	67	132	180	244	64	164	83	98
農・山・漁村	30.3%	44.6	29.9	29.5	18.9	18.0	31.2	32.3	21.7	15.3
工場街	2.8	0.4		0.8	2.2	1.6	4.7	1.8	2.4	2.0
団地	1.8	3.1	14.9	16.7	1.1			2.4	4.8	3.1
住宅地	46.8	32.2	44.8	34.1	39.5	36.1	51.6	42.1	66.3	51.0
市街地	18.3	19.7	10.4	18.9	38.3	44.3	12.5	21.4	4.8	28.6

第8表　子どもの遊び場

	外勤・フル		外勤・パート		自営		内職		無職	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
計	110人	289	67	131	177	251	63	166	81	102
十分ある	70.9%	68.2	80.6	62.6	50.9	50.2	66.7	65.6	67.9	64.9
せまいがある	18.2	22.8	10.4	25.2	22.0	25.9	20.6	17.5	19.8	25.5
ない	10.9	9.0	9.0	12.2	27.1	23.9	12.7	16.9	12.3	9.8

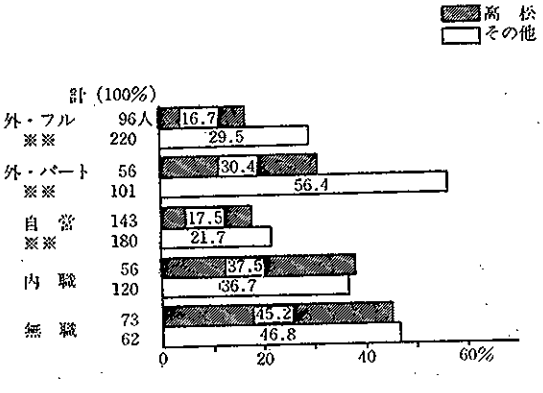
も他の地区も80%前後である。つぎが「内職」「外勤パート」である。地域的差は「自営」群にみられ，高松市より他の地域に祖父母と同居しているものが多く，使用人など身内でないものの同居は逆に高松市に多い（第6表）。

b.　居住環境は，「一戸建」「中高層住宅」「木造アパート」に分けてみた（第7表a）。一戸建の家に住むものが多く，全体の平均では88.01%である。地域差のみられたものは，「外勤パート」群であり，高松以外の地域に中高層住宅，木造アパートに住むものが多い。木造アパートの住宅は，どの群でも高松以外の地域の方が多くなっている。

c.　住居の周囲の環境を「豊山村・漁村「「工場街」「団地」「住宅地」「市街地」に分けてみたのであるが（第7表b），各群とも高松市が「住宅地」が多くなっており，とくに明らかな差がみられたのは，「外勤フルタイム」群と「職業なし」群である。「自営業」群は，高松市も他の市町も市街地に住むものが多く，主に商店であることを示している。高松市の居住環境が「農山村」まで広がっているのは，幼稚園バスでかなり遠距離からも通園している結果であろう。また，近年の市町村合併により，周辺の農村も新市内に併合されている。

d.　家の近くに子どもの遊び場があるかどうかの質問には第8表にみるように，市街地に居住する「自営業」

第1図　家賃の必要なもの



第9表　家　賃　　**－x^2＝0.01＞p

	外勤フル		外勤パート		自　営		** 内　職		** 無　職	
	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他
計	16人	65	17	57	25	39	21	44	33	29
～ 5,000円	50.0%	40.0	29.4	49.1	12.0	15.4	14.3	54.6	18.2	27.6
～10,000	25.0	32.3	29.4	35.1	12.0	17.9	19.0	27.3	9.1	37.9
～20,000	18.7	24.6	23.6	12.3	32.0	43.7	28.6	13.6	36.3	34.5
～30,000	6.3	3.1	17.6	3.5	16.0	12.8	33.3	4.5	27.3	—
～40,000	—	—	—	—	8.0	5.1	4.8	—	9.1	—
～50,000	—	—	—	—	20.0	5.1	—	—	—	—

第10表 a　収入（父＋母）月額平均　　単位：万円

	外勤フルタイム		外勤パートタイム		自営業		内　職		職業なし	
	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他
N	97	212	57	96	138	139	50	114	44	42
M	19.0	17.5	13.8	12.2	24.1	17.4	16.4	11.8	16.6	10.1
SD	5.89	4.17	5.43	3.45	12.11	14.07	6.58	5.67	9.90	0.28
t	0.02＞p＞0.01		0.05＞p＞0.02		0.01＞p		0.01＞p		0.01＞p	

第10表 b　収入月額　　**－x^2＝0.01＞p

	** 外勤フル		外勤パート		** 自　営		** 内　職		無　職	
	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他
計	96人	210	57	95	138	137	50	111	43	42
～ 30,000円	5.2%	8.6	24.6	23.2	4.4	16.8	14.0	37.8	20.9	66.7
～ 50,000	35.0	57.1	40.3	59.0	18.1	35.0	38.0	46.9	32.6	21.4
～ 80,000	32.0	26.1	26.3	16.8	21.7	27.0	20.0	10.8	23.2	7.1
～100,000	17.5	6.7	3.5	1.0	17.4	7.3	16.0	0.9	9.3	2.4
～150,000	5.2	1.0	3.5	—	17.4	6.6	8.0	1.8	2.3	2.4
～200,000	3.1	0.5	1.8	—	6.5	0.7	4.0	—	7.0	—
200,000～	1.0	—	—	—	14.5	6.6	—	1.8	4.7	—

のものが50%台でもっとも少ない。他の群は，自宅に近く子どもの遊び場があるものが70%，せまいが遊び場があるというものを含めれば80%になる。しかし，自営業のものは25%が遊び場がないと答えている。高松市も高松以外の市や町も各職業群ごとに似た傾向を示している。

e.　家賃については，まず，家賃が必要か，どうか，つまり，自分の持家とそうでないものをみた(第1図)。「内職」のもの，「職業なし」のものでは，高松市と他の市・町に差はないが，他の職業群では高松市の方が家賃の必要ないものが多い。家賃の額は第9表に示すように一般に高松市が高額を支払っている。とくに「内職」群と「職業なし」群に差が明らかであった。

f.　収入の平均を比較すると（第10表a)，「自営業」が最も多く（高松市平均24万，他の市・町17.4万円)，つぎが「外勤フルタイム」群であり（高松市平均19.0万円，他の市・町で17.5万円)，「外勤パートタイム」群が一番少ない(高松市平均13.8万円，他地域12.2万円)。各群とも高松市の方が高収入であるといえる。収入額を7段階に分けてその分布をみたのが第10表bである。つぎに父親の月収と母親の月収に分けてみる。父親の収入は，第10表cに示したものである。「自営業」群がもっとも高く，つぎに母親の「無職」「内職」群がそのつぎになり，母親の「外勤フルタイム」「外勤パートタイム」群の父親の収入は一般に低くなっている。各群とも高松市の父親の収入が他の地域のそれより明らかに多くなっている。つぎに母親の月収をみてみよう(第10表d)「外勤フルタイム」群と「自営業」群が高収入で，この両群には，高松市とその他の市・町とに差があり，高松市のものが高額になっている。母親の収入で一番少ない

* —$x^2=0.05>p$
**—$x^2=0.01>p$ （以下同じ）

第10表 c　父の収入

	** 外勤フル		* 外勤パート		** 自　営		** 内　職		** 無　職	
	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他	高　松	その他
計	94人	210	59	97	139	142	56	121	71	55
～ 30,000	—%	—	—	1.0	—	0.7	1.8	—	—	—
～ 50,000	—	1.0	—	1.0	—	4.2	—	4.1	1.4	1.8
～ 80,000	18.1	40.9	27.1	25.8	10.1	20.4	10.7	33.1	2.9	36.3
～100,000	39.4	38.5	20.3	43.3	12.9	33.8	35.7	32.2	23.9	32.7
～150,000	35.1	16.2	42.4	27.9	28.1	21.1	23.2	25.6	35.2	18.2
～200,000	4.3	2.9	8.5	1.0	27.3	9.2	19.7	1.7	23.9	5.5
200,000～	3.2	0.5	1.7	—	21.6	10.6	8.9	3.3	12.7	5.5

第10表 d　母の収入

	** 外勤フル		外勤パート		* 自　営		内　職	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
計	96人	227	57	96	118	111	48	108
～ 30,000	—%	—	7.0	11.5	—	1.8	18.7	11.1
～ 50,000	11.4	12.3	70.2	61.4	8.5	17.1	47.9	59.3
～ 80,000	24.0	46.7	15.8	24.0	29.7	44.2	22.9	23.1
～100,000	34.4	31.3	7.0	3.1	37.3	21.6	4.2	5.6
～150,000	22.9	7.5	—	—	14.4	9.0	6.3	—
～200,000	6.3	2.2	—	—	5.9	2.7	—	—
200,000～	1.0	—	—	—	4.2	3.6	—	0.9

第11表　仕事の内容

	* 外勤フル		** 外勤パート		** 自営		** 内職	
	高松	その他	高松	その他	高松	その他	高松	その他
計	100人	243	53	111	158	227	59	162
販　売	8.0%	7.8	18.9	11.7	46.8	50.2	5.1	12.4
事　務	48.0	43.6	35.8	13.5	30.4	11.5	18.6	3.7
工　員	7.0	23.5	17.0	37.0	3.8	12.8	27.1	54.9
専門職	30.0	19.4	9.4	7.2	7.6	7.9	17.0	2.5
管理職	—	0.4	—	—	0.6	0.4	10.2	—
その他	7.0	5.3	18.9	30.6	10.8	17.2	22.0	26.5

第12表　外勤者勤務先

		計	官公庁	会社銀行	幼稚園など	小・中高校	大　学	病　院	商　店	その他
** フルタイム	高　松	107人	15.0%	22.4	3.7	17.8	—	14.0	11.2	15.9
	その他	278	14.7	38.1	5.4	4.7	0.4	8.6	11.2	16.9
パートタイム	高　松	62	4.8	43.6	—	1.6	1.6	12.9	12.9	22.6
	その他	111	6.3	31.6	0.9	1.8	0.9	3.6	19.8	35.1

第13表 a　通勤に要する時間

		計	～15分	16～30分	31～60分	1～1.5時	1.5時間～
** フルタイム	高	105人	46.7%	39.0	14.3	—	—
	他	271	66.8	26.6	4.8	1.1	0.7
* パートタイム	高	54	70.4	14.8	13.0	1.8	—
	他	112	75.9	20.5	2.7	—	0.9
自　営	高	46	58.7	32.6	6.5	2.2	—
	他	30	36.7	10.0	—	3.3	—

第13表 b　出勤時刻

		計	7:00～8:00	～9:00	～12:00	午後	その他
フルタイム	高	111	50.5	40.5	7.2	0.9	0.9
	他	287	54.4	34.1	6.3	1.7	3.5
パートタイム	高	61	14.8	59.0	21.3	1.6	3.3
	他	126	16.7	46.8	27.8	5.5	3.2
* 自　営	高	77	14.3	49.3	26.0	5.2	5.2
	他	60	33.3	36.7	15.0	11.7	3.3

のは「外勤パートタイム」群である。

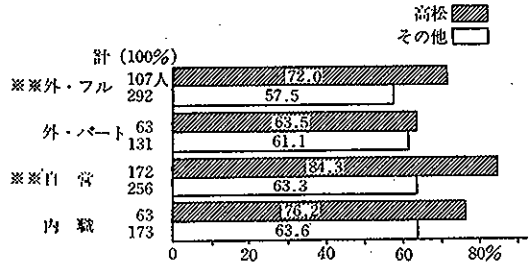
2）母親の勤務について。

a．母親の仕事の内容を「販売」「事務」「工員」「専門職」「その他」に6分類して検討してみた結果が第11表である。販売は商店，各種セールスが多い。工員は縫製，電機部品組立，染色などである。その他は運搬，子

第13表 c　帰宅時刻

	外・フル		*外・パート		自　営		内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	111人	286	61	124	73	60	9	19
1:00～	1.8%	3.5	45.9	27.4	6.8	1.6	11.6	5.3
4:00～6:00	90.1	84.6	47.5	50.0	46.6	43.3	77.8	47.3
～8:00	6.3	7.3	—	2.4	31.5	26.7	—	36.8
～9:00	—	0.4	—	1.6	8.3	6.7	—	5.3
その他	1.8	4.2	6.6	18.6	6.8	21.7	11.1	5.3

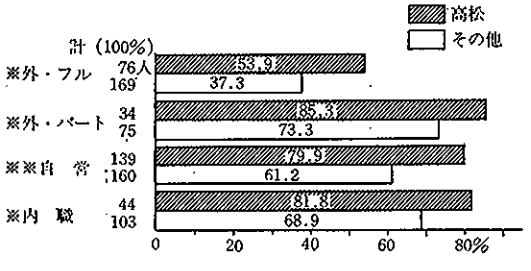
第2図　幼稚園の送迎必要なもの



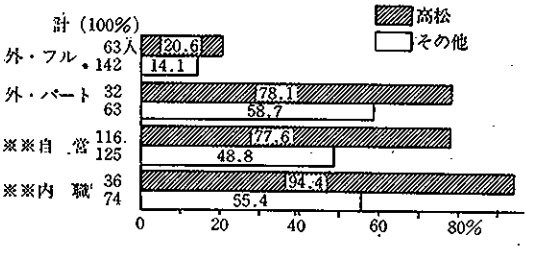
第14表　就園前の生活

	外・フル		外・パート		** 自　営		** 内　職		無　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他	高	他
計	116人	314	70	141	193	283	67	180	63	113
母がみる	18.5%	21.2	64.2	62.1	60.9	36.3	74.2	49.4	91.5	75.2
家人	42.6	42.0	19.4	15.2	18.4	17.4	12.9	9.8	8.5	10.5
自宅で他人	1.9	1.4	—	3.0	4.6	0.8	3.2	—	1.7	—
他へつれていく	21.3	20.1	6.0	—	4.0	3.1	3.2	0.6	—	1.0
保育所	23.1	23.6	22.4	25.8	23.0	49.8	3.2	43.7	5.1	21.0
共同保育	—	0.3	—	—	—	0.4	14.5	—	—	—
保育ママ	—	0.3	—	0.8	—	0.4	—	—	—	—

第3図　幼稚園へ母が送って行く



第4図　幼稚園へ母が迎えにいく



守・掃除・留守番などの手伝いなどである。各職業群とも地域差が多く，高松市に事務職が多いこと，その他の地域に工員が多いことが目立っている。外勤のものについて，勤務先をしらべてみると第12表になる。パートタイム群には地域の差はみられないが，フルタイムの群には違いがみられ，高松市に教職員，看護婦が多くなっている。

b.　通勤時間については内職群を除いて，自宅から勤務先きまでの片道の所要時間（第13表 a），出勤時間(第13表 b)，帰宅時間（第13表 c）について集計した。全体的にみて通勤所要時間は15分以内のものが多い。「自営業」のものには地域差がないが，外勤群には差がみられ，15分以内は高松以外の地域に多く，16～60分までのものは高松市の方が多い。通勤に1時間以上要するものはごく僅かであるが，高松以外の地域の方が多くなっている。出勤時刻をみると，「自営業」に地域差がみられ高松市では8時から9時に集中しているが，その他の地域では，7時～8時の早い時刻に33%のものが属している。帰宅時間は，外勤パートタイム群に地域の差がみられ，高松市では，1時から3時帰宅の勤務者が半数近くを占めている。子どもの幼稚園生活にあわせてショート時間の仕事をしていることがうかがえる数字である。

第15表 a　自宅からの通園時間

	外・フル		外・パート		** 自　営		内　職		無　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他	高	他
計	110人	294	68	136	172	259	66	173	75	103
～15分	48.2	57.2	57.4	66.2	54.7	72.6	51.5	55.5	57.4	61.1
16～30分	44.5	36.7	33.8	27.2	43.0	23.9	37.9	36.4	36.0	31.1
30～60分	7.3	6.1	8.8	6.6	2.3	3.5	9.1	8.1	5.3	7.8
1時間～	—	—	—	—	—	—	1.5	—	1.3	—

第15表 b　母の勤務先から園までの時間

	**外・フル		外・パート		自　営	
	高	他	高	他	高	他
計	103人	264	50	115	63	59
～15分	61.2%	51.5	56.0	60.9	54.0	59.5
15～30分	20.4	36.0	22.0	29.5	42.8	27.1
30～60分	18.4	10.6	22.0	8.7	3.2	1.7
1時間～	—	1.9	—	0.9	—	1.7

3)　子どもの保育について。

a.　幼稚園に就園するまでの保育をどうしていたかをしらべた(第14表)。外勤フルタイム群を除いては母親自身がみているものが多い。地域的ちがいをみると，「自営業」群，「内職」群に明らかな差がみられ，高松以外の地域では保育所に預けているものが多い。他の群でも，保育所に子どもを預けていたものは高松以外の地域に多くなっている。

b.　つぎに幼稚園の送り迎えについてみる。「送り迎えの必要があるかどうか」を示したのが第2図である。

第16表　教育費・保育費

	** 外・フル		外・パート		* 自　営		内　職		* 無　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他	高	他
計	191人	336	124	162	298	300	108	204	135	129
幼稚園のみ	56.5%	42.3	54.8	47.5	57.1	47.4	58.3	53.0	57.8	49.6
保育関係	12.6	14.3	8.9	4.9	7.0	5.0	7.4	4.4	9.6	3.9
教育関係	28.3	31.8	29.8	42.7	30.5	40.3	32.4	34.8	30.4	38.7
その他	2.6	11.6	6.5	4.9	5.4	7.3	1.9	7.8	2.2	7.8

第17表　夏休みの生活

	外・フル		外・パート		自　営		内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	107人	281	64	132	179	259	64	169
母	31.8%	16.0	61.0	68.2	74.9	70.6	87.5	88.7
家人	63.5	76.2	32.8	26.5	22.3	27.8	9.3	10.7
兄・姉	1.9	2.8	3.1	3.0	0.6	0.8	1.6	0.6
手伝い	—	0.4	—	0.8	—	—	1.6	—
その他	2.8	4.6	3.1	1.5	2.2	0.8	—	—

第18表　午後子どもを預ける所

	**外・フル		外・パート		自　営		内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	40人	129	24	52	40	67	12	35
幼稚園	—%	4.7	—	9.6	—	—	—	—
無認可保育所	2.5	0.8	—	2.0	2.5	3.0	—	—
身内	55.0	43.4	41.7	32.7	22.5	14.9	25.0	5.7
他人	12.5	10.8	—	5.8	2.5	4.5	—	—
児童館	—	—	—	—		1.5	—	—
その他	20.0	23.2	16.6	19.2	20.0	17.9	33.3	20.0
なし	10.0	17.1	41.7	30.7	52.5	58.2	41.7	74.3

第19表 a　子どもの午後の生活をみる人

	外・フル		外・パート		自営		内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	114人	294	77	148	232	305	76	193
母	19.3%	12.9	59.7	58.1	59.9	59.3	77.6	80.3
家人	70.2	79.6	33.8	35.8	32.8	37.4	22.4	19.2
手伝い	0.9	—	—	—	3.4	0.7	—	—
その他	9.6	7.5	6.5	6.1	3.9	2.6	—	0.5

第19表 b　子どもをみる家人

	外・フル		外・パート		自営		内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	95人	273	36	60	99	129	18	34
祖父	15.7%	16.1	13.9	8.3	12.1	10.1	5.6	11.8
祖母	71.6	68.5	47.2	61.7	53.5	61.2	72.1	58.8
兄	3.2	4.8	11.1	11.7	11.1	14.0	5.6	8.8
姉	4.2	4.4	22.2	13.3	19.2	9.3	11.1	14.7
その他	5.3	6.2	5.6	5.0	4.1	5.4	5.6	5.9

第20表 a　子どもの帰宅時間

	**外・フル		**外・パート		** 自営		** 内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	112人	274	67	118	180	232	65	133
～1時	6.2%	13.5	6.0	16.9	7.2	14.2	3.1	9.8
2時～	50.9	69.7	64.2	74.6	56.7	68.1	53.8	72.9
3時～	29.4	8.0	13.4	3.4	30.0	5.2	30.8	8.3
4時～	4.5	3.3	13.4	3.4	5.6	7.8	10.8	3.7
5時～	4.5	3.3	3.0	1.7	—	4.3	1.5	5.3
6時～	4.5	2.2	—	—	0.5	0.4	—	—

第20表 b　子どもと母の帰宅のずれ

	外・フル		外・パート		自営	
	高	他	高	他	高	他
計	87人	268	62	112	45	49
子どもより早い	3.4%	4.9	45.2	37.5	28.9	18.4
〃 おそい	96.6	93.3	53.2	58.0	66.7	67.3
午後出勤	—	1.8	1.6	4.5	4.4	14.3

幼稚園の送り迎えの必要がないのは高松以外の地域に多くなっている。第3図は母が幼稚園に送っていっているかどうかをみたものである。「外勤フルタイム」群と「自営業」群では地域の差が明らかで，高松市の方が幼

第20表 c　子どもより母の帰宅がおそい

	* 外・フル		外・パート		自営	
	高	他	高	他	高	他
計	89人	242	32	65	31	33
30分	—%	0.4	21.9	6.1	—	6.1
1時間	2.2	1.7	12.5	7.7	6.5	—
2時間	16.9	7.4	43.7	20.0	16.1	9.1
3時間	43.8	34.3	12.5	38.5	32.3	24.2
4時間	29.2	36.0	6.3	18.5	19.3	15.1
それ以上	7.9	20.2	3.1	9.2	25.8	45.5

稚園へ母親が送っていくものが多くなっている。また，母親自身が幼稚園に迎えにでるものをみると(第4図)，全体に高松市の方が迎えにでるものが多く，「自営」群と「内職」群では非常にはっきりした差がみられる。「外勤フルタイム」群でも，14～20%のものが迎えにでている。勤務先きから昼休みを利用して幼稚園まで迎えにでて自宅へつれかえっている。自宅から幼稚園までの距離を通園時間によってみてみよう（第15表 a）。全体に15分未満のものが多く，30分以内には殆んどのものが含まれる。高松市以外の市や町の方が一般に短時間に集中しており，幼稚園の普及度を示している。地域的差が明らかであったのは「自営」群である。つぎに，母親の勤務先きと幼稚園の距離を所要時間を通してみてみる（第15表 b）。これでみると全般に15分未満が多く，30分以内には約80%のものが含まれている。高松市以外の地域では1時間以上かかるものが数名いる。地域差がみられるのは，「外勤フルタイム」群である。

c.　子どもの教育費・保育費について。子どもひとりについて，月額どのぐらいの費用をかけているか，幼稚園の保育料，それ以外の子どもを預かるための保育費，また，おけいこごとなどにかける教育費に分けて質問した。「幼稚園の保育料だけのもの」「それ以外の保育費」「おけいこなどの教育費」に分けて検討した結果が第16表である。全体的にみて幼稚園の費用だけのものが半数前後になっている。「内職」群，「無職」群が他群よりこの率は高い。子どもの保育のための費用は，「外勤フルタイム」のものが一番多いが，それでも15%に満たない。これに対し，教育関係にかける費用は多く，少なくて28%（高松市・外勤フルタイム），多いもの42.7%（高松以外の地域，外勤パートタイム）になっている。全体的にみて幼稚園の保育料だけのものは高松市が60%弱，その他の市や町は50%弱である。30～40%のものがおけいこごと（ピアノ・オルガン・硬筆など）に費

用をかけており，高松市以外の地域の方が多い。高松市は私立幼稚園で保育料が高いためであろう。

d. 母の留守のあいだ子どもの世話をする人について。幼稚園は保育所とちがって夏休みが多い。母親が仕事をもつばあい，夏休みのあいだ子どもたちの世話をする人についてしらべた（第17表）。「外勤フルタイム」は当然家人がみるものが多いが，他の群は母がみているものが多くなっている。その他は近所の人や知人が世話をしているものである。地域的な差は「外勤フルタイム」群に明らかである。高松市は母親が世話をするものが他地域の2倍近くであり，高松市の外勤者の中には教職員など夏休みのあるものが多い結果があらわれている。第18表は，毎日幼稚園から帰って預ける所についてみたものである。母の実家，祖父母の家，その他親戚などの身内の所に預かるものが多く，とくに外勤群では多くなっている。「自営」「内職」群は，とくに子どもをみる場所や人がいないものが多くなっている。その他は近所の人や子どもの友だちの家が含まれている。その日によって一定していないので，「他人のところへつれていく」とは区別した。公立幼稚園で時間延長をして子どもを預っている所が一園あった。つぎに，午後子どもの世話をする人についてであるが，「母」「家人」「手伝い」「その他」に分けてみた。第19表aがそれである。「その他」は子どもの友だちの親や近所の人である。幼稚園から帰ってからの子どもをみる人は，「外勤フルタイム」群は，家の人が多いが，他の群では母親が多くなっている。手伝いに頼むのはきわめて少なく，「自営業」群の高松市のもの3％が一番多い。子どもをみる人については，地域の差はみられない。家人をさらに分類してみるとつぎのようになる。祖父，祖母，兄，姉，その他に分けてみた。その他は叔母，伯母，年齢の高いいとこなどである（第19表b）。各群とも祖母が圧倒的に多く，45％から72％になっている。地域差はない。

e. 子どもの午後の生活。まず，子どもが何時に家に帰るかをしらべた（第20表a）。子どもの帰宅時間は，高松市が午後2時～3時台に集中しているのに対し，他の地域では1時～2時台に集中している。高松市は私立幼稚園で園バス利用者多く，何回かに分けてバスで帰るのでおそくなる。通園時間をみても（第15表a）高松市の方が幼稚園と自宅の距離は遠いが，帰宅時間ではそれ以上の差がでている。なお，帰宅時間が4時以後になるのは，午後自宅以外の所ですごす子どもたちである。つぎに母親の帰宅時間を子どもの帰宅時間と比較して「子どもより早い」「子どもよりおそい」「午後でかける」に分けてみる（第20表b）。これでみると，「外勤フルタイム」のものは殆んどのもの（93％～97％）が子どもの帰宅よりおそい。「自営業」のものは子どもより帰宅のおそいもの67％，「外勤パートタイム」のものは53％～58％である。なお，「外勤パートタイム」のものは子ど

第21表 昼　食

	外・フル		外・パート		** 自営		内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	92人	225	49	106	110	154	41	87
母と家で	9.8%	16.5	53.1	62.3	40.9	61.1	48.8	59.8
自　宅	58.7	61.8	32.6	31.1	47.3	34.4	43.9	31.0
よその家	27.1	20.0	8.2	3.8	8.2	0.6	7.3	2.3
買ってたべる	1.1	1.3	—	—	2.7	—	—	1.1
その他	3.3	0.4	6.1	2.8	0.9	3.9	—	5.8

第22表a　夕食（作る人）

	外・フル		外・パート		* 自営		内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	108人	294	67	134	175	251	64	161
母	73.1%	70.1	92.5	92.5	80.0	80.9	92.2	91.9
家　人	26.9	29.6	7.5	6.0	14.9	18.3	7.8	8.1
手伝い		0.3		1.5	5.1	0.8		

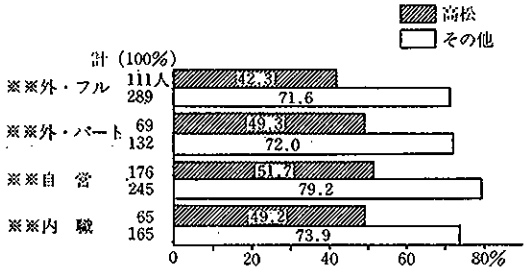
第22表b　夕食（時間）

	*外・フル		外・パート		** 自営		内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	91人	249	52	106	144	207	54	134
～5時	1.1%	—	—	0.9	1.4	0.5	—	—
5時～	81.3	67.9	86.5	72.7	73.6	65.2	79.6	74.6
7時～	17.6	30.9	13.5	26.4	18.7	30.0	20.4	23.9
8時～	—	1.2	—	—	6.3	4.3	—	1.5

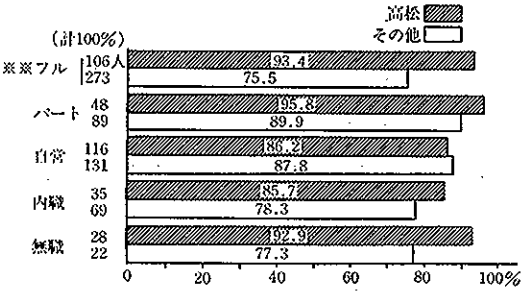
第23表　おやつの与え方

	**外・フル		*外・パート		** 自営		*内　職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	88人	198	55	106	142	160	41	109
おとなが与える	89.8%	70.7	87.3	65.1	95.1	64.4	95.2	72.5
家のものをひとりで	6.8	17.2	9.1	20.8	2.1	10.6	2.4	12.8
子どもが買う	3.4	12.1	3.6	14.1	2.8	25.0	2.4	14.7

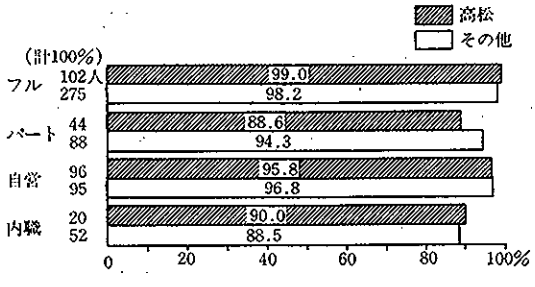
第5図　こづかいを与える



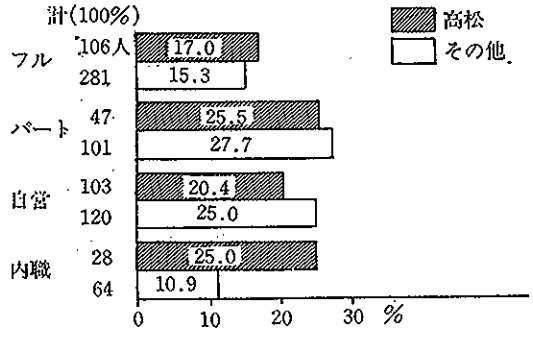
第6図　子どもの午後の生活の把握



第7図　子どもの事故を連絡する人がいる

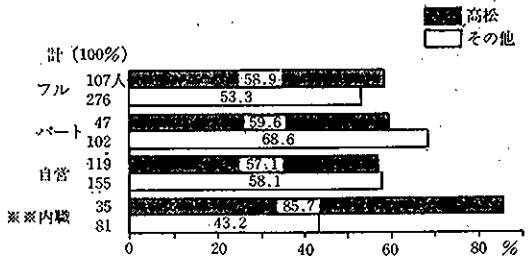


第8図　留守中の課題をきめている



もより早く帰宅するもの40%前後で，子どもの帰宅時間を考慮した勤務体制をとっているといえる。さらに子どもの帰宅時間と母親の帰宅時間とのずれをみると（第20表c）「外勤フルタイム」群に地域の差がでており，3時間以上子どもの帰宅よりおそくなる母は，高松市で80%，その他の地域では90%となっている。子どもが幼稚園から帰っての生活で，おべんとうがない日の昼食をどうしているかをしらべてみた(第21表)。「外勤フルタイム」群以外は，半数の子は自宅で母と一緒に食事をとっている。「外勤フルタイム」群でも僅かな者は自宅で食事をしている。自宅で食事するが母親と一緒でない子どもも多い。「自営業」群では，高松市が母と一緒に昼食しない子が多く，他の地域とのちがいがでている。つぎに夕食について，夕食を作る人と夕食時間について質問した。夕食を作る人を「母」と「家人」「手伝い」にわけてみると(第22表a)，各群とも母親が食事をつくることが多くなっている。「外勤フルタイム」群が70%台，「自営業」群が80%，「内職」群92%，「外勤パートタイム」群は93%である。地域的差は「自営」群にみられ，手伝いの人が夕食をつくるのは高松市の方に多い。第22表bは夕食時間をみたものである。5時～6時台に夕食をするものが多く（65%～87%），7時台に食事をするものは高松市以外の地域に多い。とくに「外勤フルタイム」群ではこの差が明らかである。つぎに，おやつをどうしているかをたずねた。自由記述であるが「おとなが与える」「自分で買う」「家にあるものをひとりで食べる」にまとめてみた(第23表)。各職業形態群ともに地域差がでており，どの群も，高松市ではおやつをおとなが与えているもの多く，他の地域では子どもが自分で買ったり，家に買ってあるものをひとりで食べたりしているものが高松市より多い。また，こづかいをどうしているかについてみると，第5図に示すように，各群とも地域差が明らかで，どの群でも，高松市以外の市，町の方

第9図　留守中の約束ごとをきめている



が子どもにこづかいを与えるもの70%～80%と多く，高松市は42～52%と少ない。

4) 幼稚園から帰ってからの母の留守中のしつけについて。

a．子どもの午後の生活を母親が知っているかどうかをたずねた。多くの母親は留守中の子どもの生活を把握しており，75%～96%と高い割合を示している(第6図)「外勤フルタイム」群では，高松市と他の町や市の違いがはっきりしており，高松市の方が子どもの午後の生活をつかんでいるものが多い。他の群も高松市の方が子どもの生活をわかっていると答えているものが多い。対照として「無職」の母親についてみたが，自宅にいる母親でも「外勤フルタイム」群と同じ位に子どもの生活を知らないものがいる。

b．子どもに事故があったとき連絡をしてくれる人がいるかどうかの質問に対しては，90%以上のものが連絡してくれる人がいると答えており，各群とも地域差はみられない(第7図)。

c．母の留守中に子どもにさせることがきまっているか。この質問に対して多くのものは特別のことをきめていない（75%～89%）結果がでている(第8図)。各群とも地域的ちがいはみられない。具体的に留守中どのようなことをさせているかを自由記述から拾いあげ，「教育」「しつけ，生活習慣」「仕事」のそれぞれに関することに分けて整理してみた。それはつぎのようになる。

留守中に子どもにさせること

	高松	その他
A 教 育		
1 おけいこごとの練習（ピアノ，オルガン，硬筆 etc.）	30	23
2 本をよむ	7	17
3 テレビ（きめたもの）をみる	4	4
4 絵をかく	4	3
5 日記をかく	0	2
6 折紙をする	1	0
7 プラモデルをつくる	1	0
B しつけ，生活習慣		
1 かたづけをする（制服，遊具 etc.）	18	46
2 家の中で遊ぶ	4	5
3 外へ出るときはこたつのスィッチをきって，カギをかける	2	6
4 昼寝をする	4	3
5 外で遊ぶ	2	3
6 友だちと遊ぶ	2	3
7 うがいをする，手を洗う	2	1
8 自分のことは自分でする	0	2
C 仕 事		
1 電話，来客をとりつぐ	3	16
2 下の子のめんどうをみる	2	3
3 動物のせわをする	1	4
4 店に電気をつける	0	2
5 弁当箱をかたづける	2	0
6 玄関の整とん（くつをそろえる，そうじ）	0	2
7 食べたら自分の食器を運ぶ	0	1
8 自分のハンカチは自分で洗う	0	1
9 祖母の話相手になってあげる	0	1

ここにみるように，子どもたちは母親の留守中に教育的課題を与えられているものが多い。また，しつけでは制服や遊具の片づけが一番多くなっている。子どもに課せられる仕事は電話や来客のとりつぎ，下の子の面倒をみるなどである。地域差をみると，高松市は教育的課題が他の地域より多く，高松市は，子どもの仕事が留守中の課題となっているものが多い。

d. 母親の留守中の子どもとの約束ごとをきめているか，どうかを質問した。第9図に示すように，約束ごとをきめているものは60%前後で，前項の留守中の課題をきめているものよりずっと多くなっている。「内職」群にのみ地域的ちがいがみられ，高松市の方が多くなっている。実際にどのような約束をしているのか，その内容をみると，母親が留守中の子どもの行動に対してどんなことを配慮しているかがわかる。つぎのように，子どもの危険に対しての注意が第一になっており，具体的に細々と約束ごとをきめている。母親の目が届かないだけにしつけに関しても注意事項，禁示事項が実際生活に即してあれこれときめられ，母親の子どもへの心くばりがあらわれている。

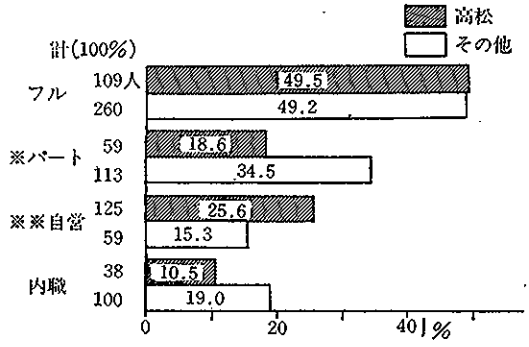
第24表 保育所にいかない理由

	*外・フル		*外・パート		*自 営		内 職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	47人	161	21	50	68	84	15	35
保育所なし	8.5%	27.9		26.0	1.5	11.9	6.7	8.6
保育所をみて	31.9	31.1	33.3	18.0	39.7	40.5	33.3	42.9
教育に欠ける	59.6	41.0	66.7	56.0	58.8	47.6	60.0	48.5

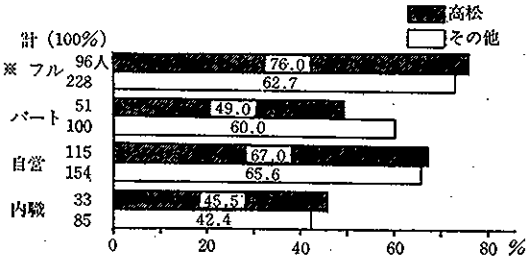
子どもとの約束ごと（注意すること，してはいけないことなど）

		高松	その他
A	安　全		
1	行き先を告げる，1人で遠くに行かない	74	185
2	交通安全	58	136
3	火や危険なものをいじらない	45	123
4	きめられた帰宅時間を守る	18	53
5	あぶないところへ行かない	24	35
6	知らない人についていかない	17	18
7	あぶない遊びをしない	8	21
8	何かあったら，すぐ大人に知らせる	3	4
9	けがをしないよう気をつける	3	0
B	しつけ，生活習慣		
1	かたづけ	29	66
2	手を洗う，歯をみがく	26	41
3	けんかをしない	8	28
4	うそをつかない	12	16
5	こたつのスイッチ，とじまりを忘れない	6	22
6	自分のことは自分でする	16	9
7	こづかいはきめて使う	10	14
8	あいさつ，返事をきちんとする	10	13
9	他人のものをとらない	6	15
10	いうことを素直にきく	10	10
11	他人に迷惑をかけない	8	8
12	ものをもらったら母に報告する	3	5
13	きめられた寝る時間を守る	4	3
14	食事のときのしつけ	3	10
15	テレビをみすぎない	5	0
16	母に何でもいう	0	2
C	仕　事		
1	下の子の世話	11	9
2	おつかい	0	2
3	動物の世話	2	0
4	留守番	0	1
5	ふろたき	0	1
D	教　育		
1	きまったテレビをみる	2	2
2	いっしょうけんめい勉強してえらい人になる	0	1
E	その他		
1	仕事のじゃまをしない	3	5

第10図　就園させていて困ることがある



第11図　働いているため心がけていることがある



5）子どもを幼稚園に通わせて働いていることについて。

a．母親が職業をもっているのに保育所を選ばず幼稚園を選んだことについてその理由をたずねた。「近所に保育所がない」「実際に保育所の保育をみて幼稚園の方が良いと思った」「保育所は教育の面で欠けると思う」の三項に大別して傾向をみると第24表のような結果になる。これでみるように，高松市では「保育所は教育面に欠ける」と理由をあげるものが他地域より多く，どの群も60%前後になっている。高松市の他の市・町でも，保育所が教育面で欠けるという理由は一番多いが，40%から50%である。「近くに保育所がない」という理由は，高松以外の市や町で多くでている。「内職」群を除いて地域的な特徴がはっきり出されている。高松市以外の市や町では「外勤フルタイム」群と「外勤パートタイム」群の30%弱が保育所不足を理由としており，公立幼稚園が普及している割に保育所の設置がたちおくれていることを示している。

さらに，自由記述のなかから，仕事をもちながら幼稚園に子どもを通わせる理由を具体的にさぐってみる。理由はさまざまであるが「教育」「しつけ」「保育所生活

との比較」「幼稚園と保育所との条件の差」「その他」の五つの項に整理してみた。その結果はつぎのようになっている。

その結果，「幼稚園へは行くことになっている」「近所の子が皆いくから」「近くにある」など，公立幼稚園の普及，準義務教育制の考えがみられ，香川県の特徴があらわれている。「幼稚園の費用が安い」という理由は公立で減免制もあり当然である。保育所より幼稚園の方が教育をしてくれる。しつけをしてくれると思っている母親も多い。

b．子どもを幼稚園に通わせて職業についていることで困ること，心配なことがあるかどうか——この質問に対して，「外勤フルタイム」のものは，その数が半々でその他の群では心配ないものの方が多い(第10図)。具体的に何が困り，何が心配であるかを整理するとつぎのようになる。幼稚園に関すること，預けることに関すること，子どもに関すること，母と子の関係に関することに分けてみた。

共働きで，保育所でなく幼稚園をえらんだ理由

	高松	その他
A 教育		
1 いくことになっている（準義務教育である）	14	29
2 幼児教育をしてくれる（保育所は遊ぶだけ）	20	12
3 小学校へいく準備としてよい	3	13
4 やることがすすんでいる	0	3
B しつけ		
1 しつけをしてくれる	9	18
2 保育所よりのびのびしている	2	1
3 時間がきちんときまっている	0	2
4 幼稚園の方が責任感がある	0	1
5 幼稚園に通った方がしっかりした子になる	0	1
C 保育所生活との比較		
1 幼稚園には昼寝がなくてよい	1	3
2 子どもが保育所にあきて幼稚園にあこがれた	2	2
D 条件		
1 通うのに便利（近くにある，スクールバス）	20	21
2 みてくれる人がいるので保育所でなくても大丈夫	6	14
3 幼稚園の方が費用が安い	2	12
4 幼稚園の方が先生がよい	6	3
5 保育時間が短かくてよい	3	5
6 申し込んでも保育所にはいれなかった	2	3
7 子どもが入園のときは母は働いていなかった	0	4
8 同年齢の集団にはいれる	0	5
E その他		
1 近所の子がみんないく	0	10
2 上の子が幼稚園に通ったのでなんとなく	5	3
3 幼稚園の方がいいにきまっている	0	1

子どもを幼稚園に通わせて働いていることで困ること，心配なこと

	高松	その他
A 幼稚園に関すること		
1 保育時間が短かすぎる	7	56
2 参観など，園の行事に行けない	33	46
3 送り迎えができない	6	29
4 お休みが多い	1	6
5 給食について（ないとき，まずい，栄養がない）	0	7
6 お弁当に手がかけられない	3	0
7 他の親や先生と話す機会がない	0	2
B 預けていることに関すること		
1 預かっている人と，しつけがくいちがう	3	18
2 家に世話をする人がいない	0	4
3 午後の保育をいやがることがある	2	0
4 預けているために発達がおくれるのではないか	0	2
C 子どもに関すること		
a 安全		
1 交通事故	2	33
2 子どもが病気のとき，みられない	11	16
3 けが	0	3
4 健康	0	3
5 雨のとき遊ぶところがない	0	3
6 子どもの遊び場がない	0	1
b 教育		
1 勉強をみてやれない	6	7
2 おけいこごとにつれていけない	3	1

c　しつけ，生活習慣		
1　しつけができない	13	6
2　規則正しい生活ができない	1	3
3　気持があれている	3	1
4　けんか，いたずらをする	0	3
5　よく忘れものをする	0	3
6　子どもがおちつかない	0	1
D　母と子の関係		
1　いっしょにいてやれない	24	42
2　さびしい思いをさせている	3	6
3　留守中，子どもが何をしているかわからない	4	5
4　子どもが母をどう思っているかわからない	0	1
5　つい甘やかしてしまう	0	2
6　子どもの立場で考えてやれず，いらいらして子どもにあたる	0	3
7　疲れて，接する気持になれない	0	1
8　接するときが少なく，情が薄らいでしまう	0	1

幼稚園に関しては，「保育時間が短い」「父兄参観に出られない」「幼稚園への送り迎えが出来ない」といっているものが多い。子どもを預けていることでは，預っている人と母親とのしつけのくいちがいを問題にしている。子どもに関しては，「交通事故」の心配，「病気のときみてやれない」なやみが上位を占めている。母と子のふれあいが少ないことも母親として気がかりなことであり，「一緒にいてやれない」「淋しい思いをさせている」「子どもが何をしているかわからない」などが数多くあげられている。

c．母親が職業をもっていることで子どもに対して心がけていることがあるかどうか。これに対しては第11図に示すように，「外勤フルタイム」群と「自営業」の群は，60～70%のものが「心がけていることがある」と答え，他の群は「ある」と「ない」の答えが半ばしている。地域的なちがいはどの群にもみられなかった。

心がけていることの内容を自由記述からみてみる。さまざまの回答をえたが，これを「母と子の関係」「子どもについて」「母親自身に関すること」に分類してみる。母と子との関係に分類されたものでは，子どもとその日その日のことを話すようにしているというものが非常に多い。母親が働くことについて，子どもに説明するなどもあり，母と子の話しあいに重点がおかれている。また，スキンシップや淋しい思いをさせないよう心がけ，母子関係の安定に心を配っていることがうかがえる。子どもに関することでは，自分のことを自分でさせること他人に迷惑をかけないこと，自立心のある子にすることなどが多く，つぎに「健康」や「事故防止」などに心くばりをしている母が多い。

母親が職をもつために子どもに対して心がけていること

	高松	その他
A　母と子の関係		
1　子どもとその日のことを話すようにする	111	157
2　母が働くことについて子どもに説明する	8	10
3　さびしい思いをさせないように	8	6
4　スキンシップを心がけている	1	9
5　子どもの帰るときには，できるだけ家にいる	3	2
6　甘えさせない	0	4
7　子どもに負担をかけない	4	0
8　参観日には行く	2	1
9　なるべくしからない	2	0
B　子どもについて		
1　自分のことは自分でやる	16	34
2　健康管理	4	11
3　交通事故に気をつける	3	10
4　他人に迷惑をかけない	3	11
5　自立心のある子にする	2	4
6　すなおな子にする	2	4
7　思ったことをいえる子にする	1	4
8　しつけをする	1	4
9　うそをつかない子にする	1	3
10　規律のある生活をする	2	2
11　友だちと遊ぶ	1	1
C　母親自身について		
1　いらいらせず，できるだけ楽しくやる	1	4
2　自分の仕事をまじめにやる	0	1
3　母独自の時間をもつ	0	1
4　母がつかれすぎないよう，気をつける	0	1

d．幼稚園に子どもを通わせて働らいていて，順調にいっているかの質問項目では，つぎのような回答がでている(第12図)。「外勤フルタイム」群では，高松市の方が順調にいっていると答えているものが多い。他の群では地域的な差はないが，全体でみると，90%前後は何とか

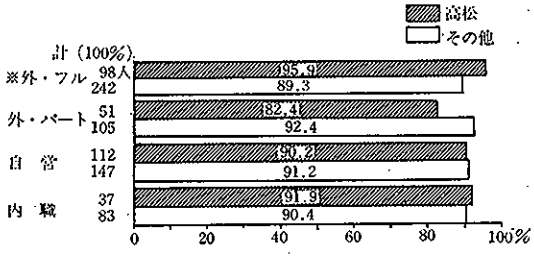
順調にやれていると答えている。

幼稚園に通わせながら働いていて，何とか順調にやっていけるという理由を詳細にみてみたい。「仕事の条件」「周囲の協力」「子どもや母親にとってよいこと」にわけてみた。最後の項，母と子にとってよいことは，順調にやれている以上に，働いていて良いという，より積極的な意見である。

幼稚園に子どもを通わせて何とかうまくやれている

	高松	その他
A 仕事の条件		
1 子どもの時間にあわせて仕事ができる（自営も含む）	37	39
2 園と近い	8	11
3 仕事の帰りがはやい	0	2
4 勤務時間が規則正しい	1	0
B 周囲の協力		
1 祖父母が協力してくれる	34	54
2 子どもを預かってくれる人がよい人である	4	9
3 夫が協力してくれる	4	5
4 子どもが母が働くことを理解している	4	4
5 園の協力（延長保育をしてくれる）	6	1
6 会社の人，隣人がよくしてくれる	1	3
7 家族みんなが協力しあう	0	1
C 子ども・母親にとっての利点		
a 子どもにとってよいこと		
1 しつけができる（自分のことは自分でする）	17	31
2 友だちができてよろこんでいる	9	37
3 団体生活を知り，規律正しくなる	11	18
4 楽しんで通っている	16	13
5 いろいろなことを覚える	5	20
6 子どもが成長している	7	2
7 兄弟（妹）の仲がよい	2	2
8 園で，すこしでも運動ができる	1	0
b 母にとってよいこと		
1 子どものいない間，安心して仕事ができる	15	25
2 仕事がもてる	0	1
3 離れて子どもをみつめることができる	0	1
4 経済的ゆとりができる	1	0

第12図 順調にいっている



まず，仕事の条件として勤務時間を「子どもの生活に合わせられるから」という理由が多くあげられている。しかし，外勤フルタイムの仕事につくものは望めない条件であろう。祖父母夫をはじめ，家族や近隣の人たちの協力によって順調にやっていけているというものも数多い。子どもと母親にとって良いことをみると，母親が働いているため自主性が育つ，幼稚園で友だちができる，規律ある生活ができるなどが子どもにとっての良い点としてあげられている。これは，とくに幼稚園だからということではなく，家庭と集団生活との違いがあげられている。また，母親のための利点としては，子どもが幼稚園にいっている間安心して仕事ができるというものが多くでている。これは幼稚園と保育所とのちがいではなく家庭と幼稚園とのちがいであろう。

6） 仕事に対して。

a．仕事をつづけることについて，「できるだけ早くやめたい」「子どもが入学したらやめる」「経済的にゆとりができたらやめる」「働けるだけ働く」の選択肢をチェックしてもらった。その結果をみると（第25表），全体でみると，「働けるだけ働く」が52%から73%と，この項に集中している。自営業群では地域差がみられ，

第25表 仕事を続けることについて

	外・フル		外・パート		**自営		内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	105人	275	60	125	117	151	45	115
早くやめたい	7.6%	12.7	21.7	10.4	9.4	6.0	4.4	2.6
入学したらやめたい	5.7	2.6	3.3	4.8	2.6	—	2.2	—
ゆとりができたらやめる	15.2	13.8	13.3	14.4	0.8	6.0	6.7	13.9
働けるだけ働く	61.0	63.6	51.7	65.6	55.6	69.5	64.5	73.0
その他	10.5	7.3	10.0	4.8	31.6	18.5	22.2	10.5

高松市の方が早くやめたいものが多く，その他は使用人があったらやめるなどが含まれている。他の群ではとくに差はみられない。

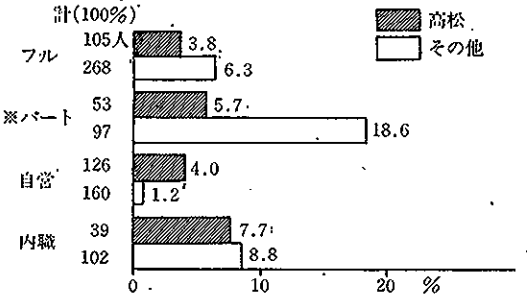
b．働く理由をみると，第26表のようになり，「外勤フルタイム」群をみると，高松の方が「自分を生かしたい，社会に役立ちたい」と答えるものが多い割に，その他の市や町では高松より「生活のために働く」が多くなっている。「外勤パートタイム」群は，他の群と比べて，「家庭に閉じこもりたくない」ものの率が高く一位であり，つぎに生活のために働くがあげられている。地域の差はない。「自営業」群では「生活のため」というものが他の群に比べて高い数字がでている。そして，「自分を生かしたい，社会に役立ちたい」は高松の方に多くみられている。「内職」群では，高松市の自分をのばし社会に役立ちたい理由は他の群と比べても一番多い。その他の地域では生活のため，よりゆとりある生活をするために働くが多いのに比べて対照的結果になっている。これは，「内職」でもその職種に差があるからである。高松市の内職の内容をみると，学習塾やピアノ教授などであり，その他の地域での内職は縫製や電機部品組立などが主である。

第26表　働く理由

	**外・フル		外・パート		* 自営		**内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	166人	389	75	168	113	201	61	151
生活費	22.3%	33.9	20.0	18.5	31.0	39.8	21.3	37.7
教育費	8.4	10.0	8.0	10.1	6.2	9.9	4.9	9.3
住宅資金	3.6	5.7	5.3	10.1	1.7	4.5	3.3	7.3
ゆとりある生活	10.8	16.2	21.4	13.1	7.1	9.5	8.2	24.5
老後のため	4.2	6.7	4.0	6.6	6.2	7.5	3.3	4.6
家庭の外に出たい	16.9	8.5	21.3	20.8	10.6	3.0	3.3	4.0
自分をのばす	18.1	9.5	14.7	13.7	18.6	15.9	24.6	6.0
社会に役立ちたい	15.7	9.5	5.3	7.1	18.6	9.9	31.1	6.6

c．幼稚園へ子どもを入れるために仕事を変えたかどうかをたずねた。第13図でみるように，殆んどのものが仕事を変えていない。「外勤パートタイム」のもので高松以外の地域のものが19%仕事を変えているだけでありこれも逆に仕事をすることに変えたものも含まれている。他の群では仕事を変えたものは1%～8%程度である。仕事を変えたものは僅かであるが，どのように変えたか，また，その理由について聞いてみると，つぎのようになっている。

第13図　就園させるので仕事をかえた



幼稚園に子どもを入れるために従来の仕事を変えた

A　どのようにかえたか	高松	その他
1　外勤から，家の中でやれる仕事に	2	9
2　フルタイムからパートに	4	4
3　きつい仕事からすこしは楽な仕事に	3	3
4　内職から外勤へ	0	5
5　遠い勤めから近い勤めに	0	3
6　朝おそく出られる仕事に	0	3
7　仕事していなかったが仕事をしはじめた	0	3
8　夜でる仕事から別の仕事へ	3	0
9　仕事をやめた	0	1
B　かえた理由		
1　子どもの世話をするため	3	12
2　子どもがはやく帰ってくるので	1	3
3　子どもが幼稚園に行って手がすいたため	0	4
4　子どもを送っていくため	0	2
5　会社では自由がきかない	0	2
6　夜勤があるので	2	0
7　収入が少ないので	0	1
8　教育上よくないと思って	1	0
9　いらいらして子どもにあたるとよくない	1	0

以上のように，仕事を外勤から内勤へフルタイム勤務からパートタイムに，きつい仕事から楽な勤務にと仕事を軽減している。また一方，子どもが幼稚園に行くようになり，その間仕事ができると仕事をはじめているものもいる。高松市には幼稚園を機に仕事をはじめたものはいない。高松では子どもへの影響を考えてスナックなどの夜の仕事を昼の勤務に変えているものが3名いる。仕事を止めたものは高松以外の地で1名いる。仕事を変えた理由は，子どもの世話をするためというのが一番多い。

第27表　父親の意見

	外・フル		外・パート		自営		内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	106人	265	62	126	131	173	51	118
賛成	43.4%	34.0	22.6	28.6	43.5	49.2	37.3	43.2
反対	5.7	4.9	19.4	12.7	3.1	2.3	9.8	9.3
どちらともいえない	22.6	26.0	45.1	42.8	7.6	9.2	33.3	22.0
やむをえない	28.3	35.1	12.9	15.9	45.8	39.3	19.6	25.5

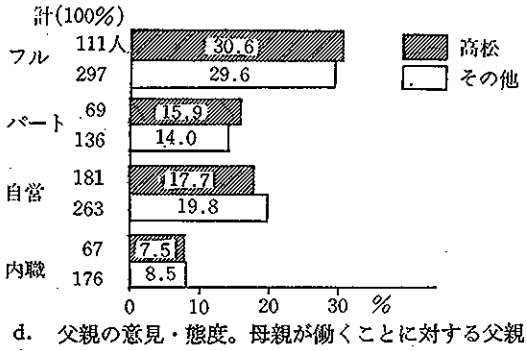
第28表　父親の育児や家事への協力

	外・フル		外・パート		自営		内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	106人	266	60	121	135	177	49	21
協力的	34.0%	39.1	28.4	30.6	43.7	39.0	30.6	36.4
やや協力的	58.5	52.3	48.3	57.8	44.4	51.4	59.2	50.4
非協力的	7.5	8.6	23.3	11.6	11·9	9.6	10.2	13.2

第29表　経済的プラス・マイナス

	外・フル		外・パート		自営		内職	
	高	他	高	他	高	他	高	他
計	74人	203	111	82	70	97	19	66
プラスになる	85.1%	77.8	75.7	68.3	52.9	63.9	57.9	66.7
変らない	14.9	19.7	23.4	31.7	47.1	34.0	42.1	33.3
マイナスになる	—	2.5	0.9	—	—	2.1	—	—

第14図　働らく母のなやみがある



d.　父親の意見・態度。母親が働くことに対する父親の意見は，第27表のように「外勤フルタイム」群では，「賛成」「どちらともいえない」「やむをえない」と分散している。パートタイム外勤群では「どちらともいえない」に集中し，自営業群は「賛成」と「どちらともいえない」に集中している。「反対」の一番多いのが外勤パートタイムである。高松市と他地域とでは各群とも似た傾向を示し，職業形態別のちがいがはっきりしている。つぎに，父親の育児や家事への協力をみると（第28表），「やや協力的」がどの群も50％前後，「協力的」も30％～40％で，「非協力的」なものは10％前後である。なかでは，外勤パート群が「非協力的」が多い。地域的差は各群ともにみられない。

e.　子どもを預けて働いて，経済的に差引どうかをたずねた。第29表にみるように，「プラスになる」「変らない」「マイナスになる」に分けてみた。大部分のものが「プラスになる」と答えている。とくに，外勤の両群は70％から80％が「プラスになっている」といっている。「変らない」というのは自営業と内職群に30％～40％みられる。「マイナス」はごく少数である。各群とも有意の地域差はみいだせない。

f.　子どもを育てながら働くことでのなやみがあるか，ないかの問に対しては，第14図のように，「ない」というものが多い。内職群90％，外勤パートタイム85％自営業80％，外勤パートタイム70％前後になっている。つまり，外勤フルタイムのものに子どもを育てながら働くなやみが一番多くでている。地域的な特徴は各群ともに明らかでない。

どんなことに悩みをもっているかを詳細にみると，つぎのようになる。広範囲にわたる意見をえたが，幼稚園に関すること，家族に関すること，子どもに関すること母親自身に関すること――に分けてみたものである。まず，幼稚園に関することでは，「幼稚園の参観に行けない」「幼稚園の他の母たちとつきあう時間がない」などがだされ，高松以外の市・町では，「幼稚園の保育時間が短かい」「幼稚園は休みが多い」と保育所なみの要求を幼稚園に対して出している。家族に関することではすでに，5)b，子どもを幼稚園に通わせて働く心配なこと，困ること，の回答にみられたが，預かってくれる人と母親とのしつけの統一がとれないことが出されている。子どもに関することでも，同じように，5)bと重複するが，子どもに十分のことをしてやれない悩みが一番多い。この他，しつけができない，ひがんだり発達がおくれるのではないかという心配もみられる。忙しくつい子どもに八つ当りをする，大変疲れるなど母の心身の疲労もだされている。また，子どもを預ってくれる施設がない(A3)，子どもをみてくれる人がいないというなやみ（C8）など切実な問題も出されている。

(2)　ここでは，視点をかえて，地域別でなく，全体を通して，「外勤フルタイム」と「職業なし」とを比較してみる。子どもにもっとも影響を与えるのが外勤で毎日出かける勤務であろう。これと対照群として家庭にいる

子どもを育てながら働く悩み

A	幼稚園に関すること		
1	参観に行けない	7	12
2	保育時間が短い	2	16
3	フルに働きたいが預かってもらえる施設がない	3	3
4	幼稚園でいっしょの母親たちとつきあう暇がない	3	2
5	送り迎えのとき（当番のとき）困る	0	2
6	幼稚園は休みが多く，休みのときは放りっぱなし	0	2
7	先生とうまくいかない	0	1
B	家族に関すること		
1	みてくれる人(祖父，祖母等)としつけがあわない	7	11
2	夫は仕事に反対，自分はやりたい	1	1
3	残業のとき困る	0	2
4	家族に迷惑をかけている	0	1
5	子どもが店にくると，祖父，夫がどなる	0	1
6	子どもが祖母をばかにする	0	1
C	子どもに関すること		
1	子どもに充分なことをしてやれない	48	99
2	しつけができない	6	12
3	母が働くと，子どもがひがんだりおくれたりするのでは？	7	11
4	忙がしくて，つい子どもにあたってしまう	1	16
5	甘やかしてしまいがち	1	9
6	子どもの生活が不規則になる	2	6
7	おけいこにつれていけない	4	4
8	母のいない間みてくれる人がいない	2	5
9	子どもの気持がわからず，不安	3	1
10	子どもに，仕事をやめて，といわれるとつらい	0	3
11	夕食がいっしょに食べられない	0	2
12	子どもに落ちつきがなくなった	2	0
13	ききわけがよすぎる	0	1
14	口答えをする	0	1
15	子どもを育てるという実感がない	0	1
D	母親自身に関すること		
1	たいへん疲れる	3	12
2	ゆとりがほしい	4	4
3	自分の時間がほしい	0	4
4	思うように働けない	1	2

母親群をとりあげて，両者に関係ある項目について検討してみる。

家族数，母親の年齢，子どもの数では，つぎに示すように，それぞれ両群に顕著な差はみられない。

（家族数）

	外勤フルタイム	職業なし
N	406	192
M	4.92	4.94
SD	1.29	1.24

t＝−0.179
0.90＞p＞0.80

（母の年齢）

	外勤フルタイム	職業なし
N	406	189
M	33.05	33.34
SD	5.26	4.68

t＝−0.647
0.60＞p＞0.50

（子ども数）

	外勤フルタイム	職業なし
N	407	191
M	1.88	1.99
SD	0.583	0.806

t＝−1.890
0.10＞p＞0.05

つぎに，父親との同居別居についてみると，下に示すように職業なしのものに父親と同居のものが明らかに多くなっている。

（父親）

	計	同居	勤務上別居	別居	離別	死別
外勤フル	403 100.0%	89.3	4.5	1.5	2.5	2.2
職ナシ	187 100.0	95.7	3.8	0.5	0.0	0.0

0.01＞p

同居者について，親子だけのものとその他の家族同居者のいるものとにわけてみると，職業のない群は，親子だけの家族が70%であり，職業群の方は逆に親子以外の身内や他の同居人がいるものが70%になっている。

（同居人）

	計	親子以外の家族・同居人	親子だけ
外勤フル	558 100.0%	71.3	28.7
職ナシ	214 100.0	27.6	72.4

0.05＞p

居住環境は，外勤群が農・山・漁村と住宅地に分散しているのに対し，対照群は住宅地に集中している。

（環境）

	計	農・山・漁村	工場街	団地	住宅地	市街地
外勤フル	398 100.0%	40.7	1.0	2.8	36.2	19.3
無　職	181 100.0	18.2	2.2	3.9	58.0	17.7

0.05>p

住居は，職業群に一戸建が多く，対照群には中高層，木造アパートが多い。

（住居）

	計	一戸建	中高層	木造アパート
外勤フル	355 100.0%	93.2	0.6	6.2
職ナシ	145 100.0	82.1	6.2	11.7

0.05>p>0.02

家賃を支払う必要のあるものとないものをみると，無職群では半数づつであるのに，職業群では26：74で自分の家に住むものが多いことを示している。家賃の額は外勤群の方が低額で，対照群の方が高額になっている。

（家賃）

	計	ある	なし
外勤フル	316 100.0%	25.6	74.4
無　職	135 100.0	45.9	54.1

0.01>p

（家賃）

	計	～5,000	～10,000	～20,000	～30,000	～40,000
外勤フル	81 100.0%	41.9	30.9	23.4	3.7	0.0
無　職	62 100.0	22.6	22.6	35.5	14.5	4.8

0.01>p

自宅の近所に危険でない子どもの遊び場所があるか，ないかでは，両群とも似たような傾向であり，「空地，遊園地など危険のない遊び場がある」が70%弱，「路地などせまいが一応遊ぶ所がある」約20%，「近所は車などが危険で遊べない」が10%前後になっている。

（遊び場）

	計	あり	せまいがある	なし
外勤フル	399 100.0%	68.9	21.6	9.5
無　職	183 100.0	66.1	23.0	10.9

0.80>p>0.70

収入についてみると，父親だけの収入は外勤群が月額60,000円～100,000円に70%含まれるのに，対照群では90,000円～200,000円に70%のものが含まれる。これを父親と母親の合計収入でみると，職業群が平均月収156,900円であるに対し，対照群は134,300円となり，有意差をもって職業群の方が収入が多いといえる。つまり母親が職業をもって生活費を分担していることが示されている。

（父の収入）

	計	～5万円	～8万円	～10万円	～15万円	～20万円	20万円～
外勤フル	304 100.0	% 0.7	33.9	38.8	22.0	3.3	1.3
無職	126 100.0	1.6	17.5	27.8	27.8	15.9	9.5

0.01>p

収入（父＋母）　　単位：万

	外勤フルタイム	職業なし
N	309	86
M	15.69	13.43
SD	5.270	8.405

t=3.031　0.01>p

就園前の保育は，職業群は「家人がみた」と「保育所」が多く，対照群は「母がみる」が75%をこえている。これは当然であるが，保育所を利用しているものも14%ある。

（就園前保育）

	計	自分でみる	家人	自宅で他人	他へつれていく	保育所	共同保育	保育ママ
外勤フル	430 100.0	% 18.9	38.8	1.4	18.9	21.6	0.2	0.2
無　職	176 100.0	75.5	9.1	0.6	0.6	14.2	0.0	0.0

0.01>p

子どもの教育費保育費について比較すると，両群とも幼稚園の保育料だけのものが50%前後で，つぎ教育関係費に30%強のものが費用をかけている。職業群は幼稚園保育料の他に保育関係の費用が多く対照群とのちがいがでている。しかし，おけいこごとの費用31%に対し，保育関係の費用は14%である。

（保育・教育費）

	計	幼稚園のみ	保育関係費	教育関係費	その他
外勤フル	527 100.0	% 47.4	13.7	30.6	8.3
職ナシ	264 100.0	53.8	6.8	34.5	4.9

0.01>p

子どものこづかいについてみると，職業群の方がこづかいを与えるものが多く対照群との差が明らかである。

（こづかい）

	計	与える	与えない
外勤フル	400 100.0	63.5%	36.5
無　職	150 100.0	54.0	46.0

0.05>p>0.02

4. 考　　察

職業をもつ母親が幼稚園に子どもを通わせている問題をさぐるため香川県各地の幼稚園の母親を対象に調査をおこなった。その結果を総括するとつぎのようになる。

(1) 母親の勤務状況から「外勤フルタイム」「外勤パートタイム」「自営業」「内職」に分け，「無職」を対照群として加え，それぞれについて検討した。高松市内は私立幼稚園だけであり，それ以外の市と町は公立幼稚園であった。そこで，高松市とその他の地域を比較し，都市と小都市・町の特徴，私立幼稚園と公立幼稚園の特徴をつかむこととした。

(2) 家族状況。家族は平均4.6人で母親の年齢平均33歳。子どもの数は平均2.1人である。職業群別，地域別にとくに差はみられない。同居人をみると，高松市より他の地域の方が祖父母と同居しているものが多く，また職業をもつものより職業のないものに親子だけの家族が多い。住居は一戸建が88%で大部分のものが一戸建の家に住む。家賃の必要ないものは高松市に多いが，家賃の額は高松市の方が高い。職業なしのものが家賃を払うものが多くなっている。子どもの遊び場は，自営業群の高松市のもの27%が車などが危険で遊ぶ場所がないといっているが，多くの子どもたちは自宅近くに庭，空地，遊園地など遊ぶ場所をもっている。

(3) 母親の職業は，高松市に事務職，専門職が多く，他の地域に工員（縫製・部品組立など）が多い。外勤のパートタイムは高松以外の地域に掃除や子守の仕事が多い。高松市はパートタイムや内職で学習塾やピアノの教師などの職業があり，高松以外の地域の内職は工場下受けの作業が圧倒的である。通勤時間は15分以内が半数強で，30分以内に大部分が含まれている。高松市のパートタイムの母親は1～3時に帰宅するもの多く，幼稚園の時間に合せて仕事をしていることがわかる。

(4) 収入をみると，「自営業」がもっとも高く，「外勤フルタイム」がそれにつぎ，「外勤パート」が一番少ない。父親だけの収入でみると「自営業」のつぎは「無職」「内職」の順になる。母親の収入は「自営業」「外勤フルタイム」が高収入で「パートタイム」が一番低額である。職業のないものは父親の収入に頼っており，共稼ぎのばあい父の収入は少ないが，両方をあわせて職業のないものより豊かになっている。

(5) 就園前の保育は，高松以外の地区で保育所に通わせているものが多く，保育所から幼稚園に移行していることを示している。自宅と幼稚園の距離は高松市以外の市や町が近くなっており，幼稚園の普及度を示している。幼稚園の保育料は高松市が月額4,000円～5,000円，他の地域は0円～1,200円である。この他の保育費は一般に必要としないものが多く，子どもを家人にみてもらっていることが明らかである。教育費にはお金をかけており，高松以外の地区の方が多い。ピアノ，オルガン，硬筆などのおけいこごとが上位を占めている。午後，子どもをみてくれるのは祖母が多く，つぎに，その他の家人，近所の人などで地域的な強い結びつきがうかがえる。手伝いの人にたのむのは非常に少なく，高松市の自営業の3%が一番多い程度である。夕食をつくるのは大部分が母親であるが夕食時間は「外勤フルタイム」「自営業」のものが他よりおそくなっている。おやつ，こづかいについては地域差が出ており，高松市はこづかいを与えず，おやつはおとなが与えるものが多い。

(6) 母の留守中について，子どもの生活を知り，事故があったらすぐ連絡がつくようにしているものが大部分である。留守中子どもにさせることや禁止事項などをみると，させることでは「おけいこごとの練習」「本をよむ」など教育的なことが多い。また「制服や玩具の後片づけ」などしつけに関することも多くなっている。禁止事項は，交通安全や遠出，火あそびなど子どもの安全に関したものが多い。

(7) 幼稚園を選んだ理由は，高松市では保育所が教育の面で劣るというのが多い。他の地域も教育が欠けるから幼稚園をえらんでいるが，行くことにきまっている，皆が行くからという答えも多い。また，費用が安いからというものもあり，公立幼稚園の特徴がでている。さらに近所に保育所がない，保育所に申込んだが入れなかっ

たなど保育所不足をうったえる保育所予備軍が30%（外勤フルタイム群）みられる。

幼稚園で困ることは，「保育時間が短かすぎる」「参観日にいけない」「子どもと接触時間が少ないなどがあげられている。しかし，何とか順調にやれていると80～90%のものが答えている。これらは地域的な差はみられない。

(8) 母の仕事については，「働けるだけ働く」というものが多く52～73%におよぶ。働く理由は高松市の方に「自分を生かしたい，社会に役立ちたい」が比較的多く，「他の地域では生活のため，住宅資金のため」が高松より多くなっている。子どもを幼稚園にやるため仕事を変えたものは少ないが，時間的ゆとりのある仕事に変えたもの，逆に子どもの世話が省けると仕事をはじめたものもいる。父親の母に対する理解と協力は，他群に比べてパートタイム群は少なくなっている。母親自身も「家に閉じこもりたくない」程度の理由が多く，収入も少ないので，父親が母の職業に積極的意義を認めていないのであろう。

以上の結果から，つぎのようなことがいえる。高松市を除いた香川県各地の幼稚園では，内職や外勤パートタイムの仕事も含めて職業をもつ母親が大部分である。公立幼稚園の広い普及により，市・町の行政機関の勧誘，母親の幼稚園教育重視，保育料の低額を理由として幼稚園に就園させている。就園前は保育所保育をうけていて幼稚園へ移行しているものが多い。地域によっては保育所の不足を理由として就園しているものもある。幼稚園から帰った子どもたちは，午後の生活を祖母とすごし，あるいは実家や親戚，近所の人たちに見守られてすごしている。地域的な結びつきが母親の問題を，また子どもの問題を解決しているといえよう。都会とちがって，危険でなく自由に遊べる空間をもっていることも問題解消の大きな要因になっていると思う。母親は，職場と自宅が通勤時間15分以内が多く，30分以内には殆んどが含まれ，比較的心身の負担が少なく，子どもとの接触時間も通勤時間が少ないだけにそれほど支障がないようである。高松市はこれらの地域とことなり，都市的問題が出され，また，私立幼稚園なので，いわゆる香川県方式の特徴はみいだされなかった。

幼稚園児の午後の生活についての調査

日本総合愛育研究所

勤めや仕事をもつ母親にとって，幼稚園は保育所より保育時間が短かいので，さまざまの支障があると思います。幼稚園がもし義務制になれば問題はさらに多くなりましょう。本調査は，この問題を知り，仕事をもつ母親のためにのぞましい条件をさぐることを目的としています。御多忙中恐縮ですが，御協力いただきとう存じます。（仕事をもたない方は記入できるところだけ記入して下さい）

なお，本調査の結果は統計的に処理し，内容が他に洩れることはありませんので，卒直な意見をおきかせ下さい。記入後，封筒に入れ，のりづけして幼稚園にお渡し下さい。

＿＿＿＿＿都県＿＿＿＿＿区郡市＿＿＿＿＿町村

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿幼稚園　　子ども名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（記入いただかなくても結構です）

該当するものに○印，または（　）内に御記入下さい。

I　家庭状況

A　家族について

a　家族は何人ですか

(1) 2人　(2) 3人　(3) 4人　(4) 5人　(5) 6人　(6) 7人　(7) 8人以上（　）人

b　父　親

(1) 同居中　(2) 勤務の都合で別居中　(3) その他の理由で別居　(4) 離別　(5) 死別

c　母　親

年齢　(1) 20歳未満　(2) 20歳～29歳　(3) 30歳～39歳　(4) 40歳～49歳　(5) 50歳以上

d　子ども（幼稚園にいっているお子さんを○でかこんで下さい）

	年　齢	男・女	（職業，学校学年，幼稚園，保育所名）
第1子			
第2子			
第3子			
第4子			
第5子			

e　同居者

(1) 祖父（　　歳）　(2) 祖母（　　歳）　(3) その他の身内（　　）

(4) 子どもの世話をする他人（　　）人　(5) 子どもの世話をしない他人（　　）人

B　居住環境

(1) 一戸建の家

(2) 中高層住宅

(3) 木造民間アパート

(4) その他（　　）

C　家　賃

(1) なし

(2) 5,000円以下

(3) 10,000円以下

(4) 10,000～20,000円

(5) 20,000～30,000円

(6) 30,000～40,000円

(7) 40,000円以上（　　）円

D　周囲の環境

(1) 農村，山村，漁村

(2) 工場街

(3) 団地

(4) 住宅地

(5) 市街地

E　子どもの遊び場

(1) 近所に空地，遊園地など危険のない遊び場がある（自宅の庭も含む）

(2) 路地などせまいが，一応遊ぶ所がある

(3) 近所は車などが危険で遊べない

F　収　入

月収　父親＿＿＿＿＿＿＿＿円

月収　母親＿＿＿＿＿＿＿＿円

月収　計＿＿＿＿＿＿＿＿円

II　母親の勤務状況

A　仕事の内容，就業時間

a　1.　外勤フルタイム

2.　外勤パートタイム（週＿＿＿日，1日＿＿＿時間位）

3.　内勤自営業

4.　内勤自宅での仕事（週＿＿＿日，1日＿＿＿時間位）

5.　全然仕事をもっていない

6.　将来仕事をしたい

いつごろから＿＿＿＿＿＿＿＿
働く理由＿＿＿＿＿＿＿＿
仕事の内容＿＿＿＿＿＿＿＿

b　どんな仕事ですか
（　　）

B　勤務先（外勤の方）
1.　官公庁
2.　会社・銀行
3.　幼稚園，保育所
4.　小・中・高校
5.　大学
6.　病院
7.　商店
8.　その他（　　）

C　通勤時間（片道）
1.　15分未満
2.　16～30分
3.　31～60分
4.　1時間～1時間半
5.　1時間半以上

D　出勤時間
午前
午後＿＿＿＿時＿＿＿＿分
帰宅時間
午前
午後＿＿＿＿時＿＿＿＿分

Ⅲ　お子さんの保育について

A　幼稚園に入る前まで
1.　自分でみる
2.　家人がみる
3.　自宅で他人がみる
4.　身内・他人のところへつれていく
5.　保育所に預けていた
6.　共同保育をした
7.　保育ママに預けた
8.　その他（　　）

B　幼稚園生活
a　幼稚園の時間＿＿＿時＿＿＿分から＿＿＿時＿＿＿分まで
b　幼稚園の送迎
1.　送迎の必要がない（子どもが，ひとりでいく）
2.　母親がつれていく
3.　母親が迎えにいく
4.　母親以外の人（　　）が，つれていく
5.　母親以外の人（　　）が，迎えにいく
c　幼稚園までの時間
1.　自宅から（片道）
(1)　15分未満
(2)　15～30分
(3)　30分～1時間
(4)　1時間以上（約　　時　　分）
2.　母の勤務先から（片道）
(1)　15分
(2)　15～30分
(3)　30分～1時間
(4)　1時間以上（約　　時　　分）
d　幼稚園の休みの期間中は子どもの世話は誰がしますか（　　）

C　子どもの教育，保育費（このお子さんひとりの月額）
内容
幼稚園＿＿＿＿＿＿円　その他（　　）＿＿＿＿＿＿円
（　　）＿＿＿＿＿＿円

（その他は，子どもを預かる　（　　）＿＿＿＿＿＿円
費用やおけいこごとの費用）　（　　）＿＿＿＿＿＿円　計＿＿＿＿＿＿

D　幼稚園から帰っての子どもの保育

a　家庭で子どもをみる人

1.　母親
2.　家人　(1) 祖父　(2) 祖母　(3) 兄（　歳）　(4) 姉（　歳）　(5) その他の身内（　　）
3.　従業員
4.　その他（　　）

b　午後預けるところ

1.　幼稚園で時間延長してくれる
2.　無認可保育所
3.　保育ママ
4.　身内のところへつれていく（子どもとの関係　　）
5.　他人（　　）のところへつれていく
6.　児童館
7.　その他（　　）
8.　とくに子どもをみる場所や人はない

E　子どもの午後の生活

a　子どもの帰宅時間（平日）

午後　1時　2時　3時　4時　5時　6時

b　母の帰宅時間

1.　母親が子どもより早く帰宅する
2.　母親の帰宅の方がおそい
(1) 30分　(2) 1時間　(3) 2時間　(4) 3時間　(5) 4時間　(6) それ以上＿＿＿時間
3.　母親が午後でかける

c　昼食（幼稚園でおべんとうのないとき）はどうしていますか

（　　）

d　夕食

1.　夕食をつくる人（　　）　2.　夕食時間　約＿＿＿時＿＿＿分

e　おやつはどうしていますか（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

f　こづかい

(1) 与えない　(2) 1日約10円～20円　(3) 30円～50円　(4) 60円～100円
(5) 100円以上（　　）円　(6) 週ぎめ＿＿＿円　(7) きめていない

VI　幼稚園から帰ってからの母の留守中のしつけについて

a　子どものその日の午後の生活内容がわかりますか

(1) わからない　(2) つかめる　(3) その方法（＿＿＿＿＿＿＿＿）

b　子どもに怪我や病気などの事故があったとき

1.　連絡してくれる人がいない
2.　すぐ連絡される　誰からですか（＿＿＿＿＿＿）

c　留守中に子どもにさせることがきまっていますか

1.　きまっていない
2.　きめている　どんなことですか
(1)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(2)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(3)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(4)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

d　子どもとの約束ごと（注意すること，していけないことなど）

1.　とくにきめていない

2.　きめている　どんなことですか
(1)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(2)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(3)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(4)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

V　子どもを幼稚園に通わせて働らいていることについて

a　共働きで保育所でなく幼稚園をえらんだのはどうしてですか

1.　近所に保育所がない

2.　実際に保育所の保育をみて，幼稚園の方がよいと思った（どんな点ですか＿＿＿＿＿＿＿＿）

3.　一般に保育所は教育の面が欠けると思う

4.　その他（　　）

b　現在，子どもを幼稚園に通わせて働いていることで困ること，心配なことはどんなことですか

1.　ない

2.　ある　　どんなことですか

(1)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(2)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(3)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(4)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

c　母親が職をもつために子どもに対して心がけていることがありますか

1.　ない

2.　ある　　どんなことですか（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

d　幼稚園に子どもを通わせて何とかうまくやれている

1.　うまくいっていない

2.　うまくいっている

理由　(1)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(2)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(3)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

VI　仕事に対して

a　仕事をつづけることについて

1.　できるだけ早くやめたい

2.　子どもが入学してらやめる

2.　経済的にゆとりができたらやめる

4.　働けるだけ働く

5.　その他（　　）

b　働く理由は何ですか

1.　生活のため

2.　子どもの教育費のため

3.　住宅資金

4.　もっとゆとりある生活をするため

5.　老後の生活のため

6.　家庭にとじこもりたくない

7.　働いて自分をのばしたい

8.　自分の技術や経験を生かして社会に役立ちたい

c　幼稚園に子どもを入れるために従来の仕事をかえましたか

1.　変えない

2.　変えた　どのように変えましたか（　　）
なぜですか（　　）

d　父親の意見，態度

働くことに対して

1. 賛成　2. 反対　3. どちらともいえない　4. やむをえないと思っている　5. 父親いない

家事や育児に

1. 協力的　2. やや協力　3. 非協力

e　子どもを預けて働いて経済的に差引どうですか

1. プラスになっている　2. 殆んど変らない　3. マイナスになる　月額＿＿＿＿＿ぐらい

f　子どもを育てながら働くことでのなやみがあったら書いて下さい。

V 総括的論考

以上の調査結果から今日の保育の問題について，とくに幼稚園との問題について考察をすすめてみたい。今日の幼稚園と保育所の関係については，一元化，その他行政的な措置をとることが論議されているが，このような行政的措置をとらずに，自然な成行きにまかせれば，どのような形態におちつくかを予測してみたい。

このばあいに，香川県方式とでも言おうか，保育所は年少幼児，幼稚園は年長幼児というようにある年齢で区別されることがまず考えられる。一方，東京などでの大都市においては，有職婦人の保育要望が一層つよくなり都市型の保育所というべきものが，つくられてくると考えられる。

香川方式（年齢による区分）は，すでに多くの地方都市においてなされており，すでに128市町村の保育所では4歳まで，幼稚園は5歳以上になっている（「48年度厚生科学研究」岡田正章論文）。この傾向の原因としては親の要求，学校側の指導，あるいは日本人の学校教育中心の考え方などによると考えられよう。母親の要求としては，保育所よりも幼稚園の方が教育的であると考えており，公立幼稚園は保育所の費用よりもはるかに低額であることに魅かれたりしている。また，学校側の指導としては，公立幼稚園は小学校に附設され，その指導のもとにあるもの多く，幼稚園義務制の話題もある時代なので，とかく幼稚園の方が教育的にのぞましいものとして勧誘する傾向がある。さらに日本人は，学校教育偏重の考えがあり，家庭にいたのでは教育が十分行なわれないと考えるし，また家庭類似の養護では幼児の発達がおくれるかの如き偏見を抱いている。また，先頃では子どもの教育権のことがいわれ，子どもを保育所に通わしていたのでは子どもの教育権が守られないような考えがひろがっている。

これらのために，親の要求，親の自然の選択から，保育所よりも幼稚園を選ぼうとする考えが強くなってくると考えられる。

このように，4歳ぐらいの幼児が保育所から幼稚園に移れば，当然，困る問題も発生してくる。短い幼稚園の保育を終えてから後の子どもの指導をどうするか，幼稚園の送り迎えの責任を父兄に課せられるし，参観日，父兄会，遠足など幼稚園行事に母親が動員されることが多い。これらの問題に対して，地方都市，あるいは町村においては，香川県の例で明らかなように，意外に問題を吸収し解決している。このような地域においては，地元の生活者が数多い。この人たちは，その土地に一定の住居をもち祖父母などと同居しているものが多い。また，別居の形をとっても，実家の近くとか，近くに親戚とか非常に親しい人たちがいる。同居のばあいでは，子どもの幼稚園後の世話を頼むのは何でもないことであるし，また元気な祖母がいるばあいには，むしろ，嫁が外に出て働き，家事や子どもの世話を祖母にゆだねた方が経済的にも，人間関係のうえでも万事好都合にいくのであろう。地方都市や町村では，職場と住居が接近しており，通勤に30分をこすものが非常に少なく，15分位のものが多い。これは働く母親の気持を軽ぐさせるとともに，家庭における子どもとの接触時間を多くしてくれ，それだけ働く母親のなやみを軽減してくれる。さらにまた，かれらの生活地域は，共同体的性格を残しており，たとえ子どもの親が留守であっても，近隣の人が暖かく見守ってくれ「カギっ子」としての心配も少ない。このようなわけで，4歳ごろから幼稚園に切りかえたとしても，子どもの問題に深刻ななやみをもつことはあまりおこらないようである。このために仕事をやめたり専任からパートに切りかえたという人もごく僅かである。

地方都市，町村においては，主として転入者に問題がおこるのではなかろうか。すなわち，地方の施設に転勤してきたような人たちの問題である。このような人は，親や親戚のような頼る人のいない所で夫と子どもだけの小家族である。その住居も今日のことであるから，貸間小借家程度で終日子どもの育児に追われがちであろう。かれらは外に出て働きたくても，それができないような状態におかれている。このたびの調査の中で，無職の人をみると，必らずしもこの人たちが移住者というわけではないのであるが，その同居者数は少ないし，一戸建に

住んでいる人も少なく家賃の負担は一番多い。父親の収入は，他の平均より50,000円ぐらい高いようであるが，父親の収入に依存しているので，その生活は必らずしも豊かではない。地元で共稼ぎをしている人は家賃はあまりいらず，二人の収入をあわせれば，19万円が平均でかなり安定した生活ができていると考えられる。したがって，もし転入の人が働くとすると，幼稚園では間にあわず，どうしても長時間保育の保育所が要求されてくるのではなかろうか。ただ地方都市では，このような人の数が少ないから，あまり表面にでないのではなかろうか。したがって地方においては，今後は年少幼児のための保育所となり，年長幼児は幼稚園に移るという傾向がつよくなると考えられる。

大都市型。これに対し，東京の大都市では事情がことなる。大都市は元来，その土地に代々生活している人は少ない。少数の地元都会人でも親の屋敷の中に別棟をつくって生活できる人はごくまれである。また，新婚当時は実家の近くのアパート生活などしても，やがて公団住宅などに移るが，このばあい，実家の家から非常に遠ざかり，とても子どもの世話を親に頼むなどということは困難である。それに都会には，地方からの流入家族が非常に多い。かれらは核家族であり，住宅難のため，子どもが自分の家の中で遊んだりすることもできない。この人たちは，母親が働らきにでるとすれば，どうしても長時間保育してくれる保育所でなければ間にあわなくなる。その保育時間も通勤時間がかかるため，さらに延長されがちである。このような人の中には，公務員，会社員，教員，看護婦，自家営業のような，専門的，あるいは半専門的職種の人がふえてきた。かれらは経済的に貧困ではなく，したがって保育所措置の方からいえばD階級の人たちであり，しかもその専門職種であるがゆえに途中で退職することは当人の希望からも経済的面からも不利であり，看護婦などは家庭に帰った人さえ改めて動員されている。このような人たちは，保育所に対する強い要求をもっており，しかも保育所の方が変化している。以前は貧困階級のための援護機関とみられていたが，最近の有職婦人たちはそのような偏見をもっておらず，大学の講師をしながら子どもを保育所にあづける人もみられる。

この意味で都会の保育所としては，このような専門的半専門的職種の母親から強い要望がだされてくると思われる。このように新しい要請に応じた保育所が地方の保育所と別の形態で要求されてくる。このような専門的，半専門的な有職婦人にその職業を通して生きがいをもたせ，社会に貢献さすことは非常に必要なことであり，そのために必要な保育機関が整備されることは望ましいことである。しかしかれらは，経済力も具えた職業人であるので，その公的援助もそれほど必要としない人達である。あまりにも過度の援助をすることは，大谷嘉朗氏の研究（49年度厚生科学研究）にもみられるように，かえって家庭にて育児に専念している人に対し不公平になるおそれがある。国で定めた収入に応じた父兄の負担ぐらいならよいが，さらにそれ以上の援助を府県で加えることは，やはり税金を使用するのであるから，かなり慎重な配慮が必要である。受益者負担をたてまえとし，それに若干の援助をするのが正しいのではないだろうか。

以上，保育所の今後の動向について簡単な考察をおこなったが，その結果から考えられる保育所の制度について付言しておきたい。

保育所は，3歳までの年少幼児と4～5歳の年長幼児に大別することがのぞましい。この区分の年齢は，3歳あるいは5歳でよいかも知れない。幼稚園は3歳からすることになっているので，それ以前の年齢にしてもよいし幼稚園の義務制が仮に5歳児からになれば5歳に移動してもよいかも知れない。しかし今日の幼稚園の現状から考えて，2年保育が普及しており，一方，3歳児の就園については子どもの発育のためからいっても必らずしも望ましいとは考えられず，ゲゼルなどは3歳児が毎日幼稚園に通うことは有害であるとさえいっている。ゆえに，幼稚園に切り変える時期は4歳であるとするのが妥当であると思う。

3歳以下の年少幼児のための保育所は，家庭保育を補完するためにおこなう養護を主とし，基本的習慣の自立を集団を通して指導するものとする。

年長幼児の保育所は，幼稚園においておこなわれる教育的機能と内容を包含したものでなければならない。

地方の都市や町村においては，年長幼児のための保育機関はそれほど必要性がないので，保育所は満3歳までとし，5歳まで延長できるという措置でも間にあうかも知れない。しかし，大都市においては，年長幼児のための保育所の要望がつよく，ますます増大すると思われるので，これに対する具体的な対策をとる必要があろう。そのためには，さまざまの形態が考えられるが，単純な幼保一元化論やそのための行政機構を新設することはきわめて困難であるので，つぎのようないくつかの道は実用性をもつのではなかろうか。

＜第1案＞

今日の保育所の年長幼児を，幼稚園の設置基準や教育内容，指導者の教員としての資格など，幼稚園と同等のものとし，そのうえでなお長時間保育をしていることに

対して，文部省側に幼稚園教育をうけたものと認定してもらうこと，これは保育所と幼稚園の二重看板にするというのではなく，保育所の保育を，義務制と化したばあいの幼稚園と認定してもらうことである。

<第２案>

４歳以後の保育と教育は，幼稚園側に委託する。したがって幼稚園は，ふつうの幼稚園教育のあとで延長保育をする。このことは，他の労働条件と他の要件が整えば保育そのものは困難なことではない。年少幼児のばあいには，養護的要素が非常に多いので困難であるが，年長幼児のばあいはそれほど困難ではない。フランスのエコール・マテルネルは午前の保育がすむと，一旦家へ帰るが，２時頃から再び午後の保育をおこなっているし，イギリスの infant-school（５歳から７歳までの義務教育）では，午前中は３時間の学習指導をおこなっているが，午後は絵画製作や遊びなどを中心として，同じ場所で同じ教師が指導をつづけている。ただ日本の公立幼稚園では，制度上，あるいは教員の要求などから，この形態は殆んど不可能かも知れない。しかし，私立幼稚園ならばこの問題を簡単に解決してくれるであろう。すなわち，長時間保育してくれる私立幼稚園がつくられ，その経費は受益者負担をたてまえとする。ただし，教育に関して幼稚園就園補助があるように，保育的役割に対して厚生省からの補助金が出ることが望ましい。

<第３案>

児童館を活用する。今日学童保育を児童館がおこなっているが，幼稚園後の時間の保育に欠けた子どもに対して，児童館がうけもつ。しかしこの場合は，児童館に行っている間だけの指導でなく，幼稚園を終えてから家庭に帰るまでの保護と指導をうけもたねば親として安心できないから，児童館の機能を大いに拡張する必要があろう。